



University of Tsukuba Library

Annual Report

2016



**筑波大学附属図書館
年報2016
年度**

目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2016

16

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 国立大学図書館協会ビジョン 2020 の目指すもの
3	3 フォーカス (2016 年度の特徴的な活動・事業) 1) 学術情報部の発足 2) クラウドファンディングプロジェクトを実施 3) 附属図書館プロモーションビデオの制作 4) 体育・芸術図書館に「ユーリカ!」を整備 5) 知的好奇心を刺激するイベント・展示の開催 6) 2016 年度筑波大学附属図書館特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」
11	4 資料紹介 フランス史研究の宝庫・二宮文庫ついに公開
12	5 職員の活動 1) 平成 28 年度グローバル・スタッフ育成室海外短期派遣研修報告 2) 機関リポジトリ推進委員会協力員活動報告 3) 論文発表・研修における講師等 4) 職員研修会
16	6 トピックス サービス・活動、施設・設備、イベント・セミナー・授業・展示・見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、研修・シンポジウム、会議、研究開発室
21	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 筑波大学出版会の刊行物 4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
23	8 附属図書館ボランティアの活動
24	9 組織図・歴代図書館長
25	10 統 計

表紙写真

上：中央図書館4階から石の広場を望む
下：石の広場から夜の中央図書館を望む

裏表紙写真

上：附属図書館PVのひとコマ
体芸図書館「ユーリカ!」の学習風景
中：大塚図書館に配架された二宮文庫
図情図書館ラーニング commons の学習風景
下：朗読を披露するPepperくん
大志を抱くがまじゃんぱー
医学図書館吹き抜けの学習風景

館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(学術情報)・附属図書館長

西川 博昭

情報化と大学図書館

「筑波大学附属図書館年報2016」をお届けするにあたり、2016年4月より学術情報担当副学長、附属図書館長を拝命した立場より、これからの大学図書館の在り方について、私見を述べさせていただきます。

昨年6月の国立大学図書館協会総会にて採択された、国立大学図書館ビジョン2020では、「大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する」と提言されました。

最近問題となっている電子ジャーナルなどの高騰に対処すべく、オープンアクセスの実現が盛んに議論されるようになりました。オープンアクセスとは、「査読済み論文が、インターネット上で自由に入手でき、その際、いかなる利用者に対しても、論文の閲覧、ダウンロード、コピー、配付、印刷、検索、全文へのリンク付け、検索ロボットによる索引付け、データとしてソフトウェアに転送すること、その他、合法的な用途で利用することを財政的、法的、技術的な障壁なしで許可すること」とされています。また、「公的研究資金を用いた研究成果(論文、生成された研究データ等)について、科学界はもとより、産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することで、イノベーションの創出につなげることを目指した新しいサイエンスの進め方を意味する」オープンサイエンス、さらに、「自社だけでなく他社や大学、地方自治体、社会起業家など異業種、異分野が持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データ、知識などを組み合わせ、革新的なビジネスモデル、研究成果、製品開発、サービス開発、ソーシャルイノベーション等につなげるイノベーションの方法論である」オープンイノベーションが叫ばれるにいたっております。

筑波大学における情報発信関係の最近の大きな話題として、筑波大学オープンアクセス方針を学長裁定したことが挙げられます。まだ不十分ではありますが、大学図書館が学術情報流通の主たる役割を担い、研究者の成果を広く世の中に発信するための重要な制度です。

情報発信への寄与が期待されるつくばリポジトリは11周年を迎え、総コンテンツ数は順調に増加し、約40,000件になりました。筑波大学オープンアクセス方針の策定により、図書館はリポジトリに登録可能な論文を調査し、可能なものは登録できるようになりました。ただし、論文によっては著者最終稿が必要な場合もあります。筑波大学の研究成果を広く公開するために、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

筑波大学附属図書館は、開学以来、大学と同様に、開かれた大学図書館を意図し、現在では、未来想像・創造大学図書館をめざしております。

未来想像・創造大学図書館を標榜する限り、我々を取り巻く情報化の流れを考慮せざるを得ません。周知のように情報学そのものは、当初の情報処理・通信という理工学の一分野という時代からは、大きく変貌し、Big Data、AI(Artificial Intelligence)、IoT(Internet of Things)などにその典型がみられるように、今後ますます我々をとりまく社会において、さらに急速に進行することが予想され、既に情報は本質的な環境の一つになったとさえ言われています。

Big Data時代と呼ばれる現在、一年間に地球上で生成され蓄積されるデータ量はゼタ(10^{21})バイトに達しており、コンピュータシステムの黎明期に処理対象としていた数キロバイトのデータ量と比較すると、いわゆる分子の直径と太陽系の惑星の軌道の直径程度の違いがあると言われています。また、最近では、AIが人間の能力を超え、テクノロジーが急速に変化して、人間の生活が後戻りできないほどに変容してしまう技術的特異点に到達するとする未来予測がなされ、AIによる支配や失業が心配されております。さらには、Big DataをAIにて処理する第4次産業革命が起きるとの期待もあるようです。

しかし、Big Dataを如何に処理するかよりも、如何に有効なBig Dataを獲得するかが本質となることは明らかです。IoTが有望視される所以でもあります。このように考えると将来の大学図書館の在り方が見えてきます。言うまでもなく、大学図書館において脈々と蓄積されてきた知識基盤は、質保証されたBig Dataと認められるものであり、これらをAIを用いた処理対象とするのは有望な方法論の一つとなるでしょう。

さて、筑波大学附属図書館は国立大学図書館協会の理事館であり、国公立大学図書館協力委員会、および大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議のメンバーです。昨年8月より、国公立大学図書館協力委員会委員長を拝命し、昨年11月に、国立国会図書館長との懇談の機会を得て、「オープンサイエンスと大学図書館-大学図書館は研究者のパートナーとなれるのか-」をテーマに議論いたしました。将来の図書館職員の在り方などに様々な意見が飛び交う中、アクティブラーニングなどのこれまでの学修支援に加えて、発想を誘発する環境づくりがこれからの研究支援を行うきっかけになるのではとの積極的な提案がありました。

学術情報部2年目にあたり、附属図書館は、未来想像・創造大学図書館をめざして、発想支援環境の構築に努力して参りますので、今後ともご支援の程、お願い申し上げます。

国立大学図書館協会ビジョン2020の目指すもの

はじめに

第63回国立大学図書館協会総会(2016年6月16日～17日、仙台市)に於いて「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2020～」が採択されました。

そこでは3つの重点領域をかかげ、近未来の国立大学図書館のありようを明確にしようとしています。ここではそれら重点領域について簡単に紹介しましょう。

知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

この重点領域は、国立大学図書館の扱う『情報媒体』についてのビジョンを提言しています。

図書館といえば紙媒体の図書と雑誌、というイメージは次第に薄れつつあります。電子ジャーナルによって大学図書館から紙の論文誌が駆逐されつつあるのは、誰もが実感できることでしょう。国立大学図書館は電子ジャーナルやデータベースなどの購入について、他の大学図書館等と連携して対応を行ってきました。また電子ブックについてもどのような契約形態が可能かと、大学図書館全体が出版界と折衝を続けて来ましたが、この重点領域ではそれに加えて、これまで明示的に述べられて来なかった、機関リポジトリやオープンデータについても対応することを目標にかかげています。紙媒体という枠組みを取り払うだけでなく、書籍や論文という枠組みをも取り払い、国立大学図書館が取り扱うコンテンツを知識全般に広げるということを述べているのです。

もちろん、それらの知識にたどり着く手段を提供する事も国立大学図書館の役割であるとして、目標として知識や情報を効率的・網羅的に発見できる環境の提供をかかげています。

知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

この重点領域は、国立大学図書館の扱う『場』についてのビジョンを提言しています。

大学図書館というと、図書館の建物をイメージし、そこで一人静かに論文を読む学生や教員の姿を想像します。しかし、ラーニングコモンズに代表されるようにアクティブラーニングの活動を行うコミュニケーションの場としての国立大学図書館の役割がクローズアップされ、そのような場の設置が進んで来ております。この重点領域はそのことを明示化するとともに、そのコミュニケーションの場をインターネット空間のようなバーチャルな世界にも広げることが構想し、それについても国立大学図

書館が対応することを明確にしています。

さらにそのような場合は学術コミュニティに限定せず、知の創出と共有を行いたいさまざまな人々に提供することを目標としてかかげております。

新しい人材：知の共有・創出のための＜人材＞の構築

この重点領域は、上記二つの重点領域を行うための『人材』をどのように確保するかについてのビジョンを提言しています。

その一つとして、様々な人々に参画してもらうという目標を掲げています。新たな知の共有や創出を行うには、多様な能力やスキルを持つ人々と大学図書館員のコラボレーションが必要であるというスタンスです。現在でもラーニングコモンズに大学院生などを配置している大学図書館が多く見受けられますが、様々な部署のより多様な人材を図書館に配置して、国立大学図書館による「キュレーション」や「ファシリテーション」提供機能を充実させようというものです。

もう一つの目標は、現在の大学図書館員の資質向上です。急速に変化する学術情報流通環境に対応できるよう、図書館員自身が新たな知識やスキルを習得することを目指そうというものです。

おわりに

以上の重点領域は、全ての国立大学図書館がその全ての実現を目指すべきものという位置づけではありません。それぞれの国立大学等のミッションや中期目標等の戦略目標は異なりますので、それぞれの国立大学図書館はその戦略目標と合致する重点領域を行えば良いという考えです。

国立大学図書館協会は、委員会活動を通して重点領域の実現を支援しようとしています。そのため本ビジョンの策定と合わせて協会の持つ委員会組織を再編し、総務委員会、オープンアクセス委員会、学術資料整備委員会、学術情報システム委員会、図書館環境高度化委員会の五つの委員会を設置しました。

近年の国立大学は大きな変動の中にあります。ミッションの再定義によりそれぞれの大学が特色を明確にし、第3期中期計画では三つの重点支援(世界最高の教育研究拠点、全国的な教育研究拠点、地域活性化の中核的拠点)に類型化されました。今回のビジョン策定は、多様化した国立大学図書館協会の会員館に対して協会の役割を明確化する方策の一つと考えられます。

(図書館情報メディア系教授 中山 伸一)



1. 学術情報部の発足

1. 組織再編の概要

2016年4月1日、筑波大学学術情報部が発足しました。これは、前年度まで附属図書館事務部に置かれていた情報管理課と情報サービス課、そして総務部の情報化推進課が一体となることで誕生した事務組織です。あわせて、総務部企画室にあった大学出版会担当も学術情報部に統合されました。同時に附属図書館副館長(事務職)を廃止して学術情報部長が置かれ、3課の名称は、情報企画課、アカデミックサポート課、情報基盤課に変更されました。

2. 検討の経緯

この組織再編は、2014年度に始まった第3期中期目標・中期計画検討の過程で浮上したものです。本学の運営上の課題として、学内に存在するさまざまな情報(学術情報、教育研究の成果、財務・人事情報など)が適切にマネジメントされていないという課題が指摘されました。そこで、学長の指示により、「学内の各部署に局在する情報を統合的にマネジメントし、情報ガバナンスを強力に推進できる体制を構築する」ために、「附属図書館、情報化推進課及び学術情報メディアセンター等の関連組織を再編成する」ことの検討が開始されました。

2015年度から学術情報担当副学長を兼務することとなった中山伸一附属図書館長(当時)の下、附属図書館事務部と情報化推進課の間で、組織統合と、その波及効果として、どのような「情報ガバナンス体制」を構築することが可能かについて検討を重ねました。最終的に、附属図書館、学術情報メディアセンターなど、利用者にサービスを提供している組織の改編は行わず、その支援事務組織を統合することが現実的であるという結論になりました。

以下に、2016年度に発足した学術情報部の各課と関連組織について紹介します。

3. 情報企画課

情報企画課は、学術情報部の総務のほか、附属図書館の企画渉外事務、図書館システム、資料の購入・受入等を所管しています。

2016年度から、情報ガバナンス担当の主幹(課長補佐級)と情報ガバナンス係長が新たに配置されました。「情報ガバナンス」とは、学内で作成された教育、研究、財務、施設、人事等に関する情報(データベースや表計算ソフトウェアで管理される電子データ)の蓄積状況を把握し、データの有効利用を図ることと我々は考えました。どの部署がどんな情報を保有しているかを明らかにするという作業は、図書館資料の「目録所在情報

データベース」の構築と類似するところがあり、「メタデータ」がひとつの解決策になると思われます。

担当係に加えて、学内の各部署で情報の作成・蓄積に関与している職員を集約した「情報ガバナンス基盤室」を新設することにより、全学体制で課題に取り組んでいます。室長は、図書館情報メディア系の杉本重雄教授です。

また、情報企画課には、筑波大学出版会を担当する出版会担当も加わりました。係長1名と非常勤職員の小規模な体制ですが、運営委員会をサポートし、本学の研究・教育成果を分かりやすく社会に発信することを目指しています。

4. アカデミックサポート課

アカデミックサポート課は、4つの専門図書館を含め、利用者サービス業務全般を所管しています。

2016年度から、学習支援サービスをより強力に推進するため、ラーニングサポート係長を新設しました。また、旧・情報管理課に所属していた公開・ボランティア担当を同課に改編しました。

5. 情報基盤課

情報基盤課は、情報ネットワークの維持管理、業務情報システムの整備管理、情報セキュリティに関すること等を主な業務とし、情報環境機構、学術情報メディアセンター、情報セキュリティ管理室等の学内組織を支援しています。

6. 課題と展望

組織再編から1年が経過しましたが、大多数の「図書館員」の日常に変化はなく、残念ながら「学術情報部」としての一体感はあまり浸透していない状態です。

しかし、今後、財政的・人的リソースが縮小を迫られる中で、図書館サービスの高度化を目指すには、従来の組織の枠を超えた連携を強めていかなければなりません。特に、情報環境機構が推進する「知の集積と発信機能の強化」において、電子図書館システム(TULIPS)及びつくばリポジトリ(TULIPS-R)に期待される役割は大きいはずで、今後、どのように具体的な連携を深めていくかが課題です。

また、「情報ガバナンス」は、図書館員のメタデータスキルを活かす新たなフィールドとなり得るか、まだ明確な結論は見えていませんが、引き続き、取り組んでいきたいと思います。

(学術情報部長 江川 和子)

2. クラウドファンディングプロジェクトを実施

1. はじめに

筑波大学は、日本初・国内最大のクラウドファンディングサービス「Readyfor」を運営するREADYFOR株式会社とクラウドファンディングを活用した寄附金獲得のための業務提携を開始しました。このようなクラウドファンディング事業者と国立大学との提携は国内初となります。

提携後初のプロジェクトとして始動したのが、2017年1月26日に公開した「筑波大学図書館資料購入プロジェクト」です。本プロジェクトでは未来を担う本学学生のための研究・学習用資料の購入の他、各種図書館サービス向上のための支援金を募集しました。

2. プロジェクト開始の経緯

国立大学に配分される運営費交付金は削減傾向が続いています。筑波大学も例外ではなく、附属図書館においても、十分な資料費を確保することはできていません。

学習、教育、研究活動に不可欠な学術情報を必要十分に提供することは大学図書館としての重要な使命です。しかし、学術情報流通の中心的媒体である電子ジャーナルの著しい価格高騰の影響もあり、限られた予算の中では、学生が希望する研究・学習用図書を購入費用を削る、主要な雑誌や新聞の購読さえ中止する等の苦渋の決断をせざるを得ない状況となってきました。

このような状況を少しでも打開したいという思いから、私たちはクラウドファンディングという試みに踏み切りました。



3. Next Goalへの挑戦

期間を2017年1月26日～3月31日までと設定していた本プロジェクトは、予想をはるかに超えるご支援をいただき、公開からわずか6日という早さで目標金額である300万円を達成することができました。

プロジェクトの計画当初は学生の利用が最も多い中央図書館の資料を中心に整備することを検討していましたが、このように多くのご支援をいただいたことから、更に各専門図書館の資料の

充実も目指せたらと考え、2017年2月3日に新たに200万円を増額した500万円を次の目標金額として設定しました。

4. プロジェクトの成立を受けて

3月31日のプロジェクト終了時点で、延べ307名もの支援者の皆様から総額512万4千円ものご寄附をいただきました。多くの方からいただいた温かいお気持ちを本学学生に届けるべく、購入・整備する資料の選定に取り掛かっています。

プロジェクトを具体化するにあたり、学生時代に多くの本や文章、ものの考え方に触れることで、その後の人生の糧となる体験を学生に積んでほしいとの思いが私たちにはありました。それができるのは、図書館に十分な図書・雑誌が整備されていてこそです。選定にあたっては「大学図書館でしか得られない知的体験」につながる図書・雑誌であることを条件に絞り込んでいきます。

実際に整備された資料の概要については、附属図書館webページ等でご報告する予定です。

5. 活動の振り返りと今後の展望

私たちは今回のプロジェクトを一過性のものとして終わらせるつもりはありません。

第一に、継続的な資料費確保の手立てを模索していきます。今回のプロジェクトを通して、多くの方に大学図書館の現状を知っていただくことができました。いただいたコメントやSNSでの投稿の中にも、「今回集められた金額では慢性的な資料費の不足を補うには足りないのでは」「一時的な金策よりも根本的な財源の確保に取り組むべき」との声が多くありました。こうした声を真摯に受け止め、これまで以上に多くの可能性の中から、安定的に資料購入費を確保するための方策を探っていきます。

第二に、今回作り上げた図書館への支援の輪を広げていきます。支援者の皆様と私たちは、豊かな読書体験を得られる環境を後輩たちにも当たり前のように享受してほしいとの願いを共有しています。今回のプロジェクトでいただいたコメントには支援者ご自身の学生時代の読書体験や図書館の思い出が数多く綴られており、私たちも励まされると同時に身の引き締まる思いです。今後も、支援者の皆様とのつながりが続いていくように、様々な取り組みを続けていきます。

筑波大学附属図書館が、学生に豊かな知的体験の機会を提供する「書物の森」であり続けるために、私たちは様々な挑戦を行っていきます。今後の活動にも、ぜひご注目ください。

(クラウドファンディングプロジェクトチーム)

3. 附属図書館プロモーションビデオの制作

1. 動画による広報の見直し

附属図書館では、古くはビデオカセットによる案内ビデオ、2008年にはWebから提供するプロモーションビデオ「週5図書館生活どうですか」(以下「週5」)を公開、2009年には特別展の講演会やギャラリートークをYouTubeで公開する等、動画による様々な広報を行ってきました。

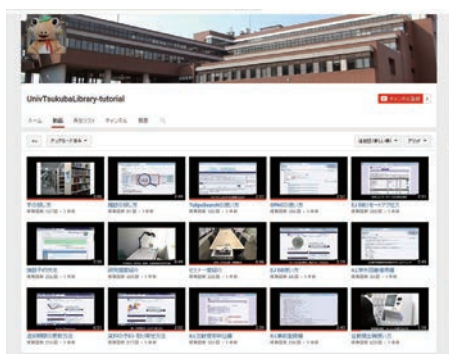
「週5」は、ストーリー仕立てのビデオで、図書館の利用に関する必要情報を提供するとともに新しい図書館利用を提案し、利用を促進するツールとして広報に活用していましたが、このビデオは23分という長いものでもあり、制作からかなり時間も経過していることから、2014年度からワーキングチームによる見直しを開始しました。

ここでの検討により、図書館のイメージと魅力を伝えるものとしてのプロモーションビデオ(以下PV)と、個々のサービスを項目ごとに説明するチュートリアルビデオ(以下TV)をそれぞれ分けて制作することが決定しました。TVは、レファレンス担当が「知の探検法」の反転授業で使用する動画の制作で得たノウハウを使って2015年度に制作し、PVは2015年度にさらに詳細をつめた上で、2016年度に制作することになりました。

2. チュートリアルビデオの制作

2015年度に制作することになったTVは、利用方法の案内が必要なもののなかから、動画での説明が適するもの15項目を厳選し、ワーキングチームで制作しました。それぞれの動画は3分程度に抑え、YouTubeチャンネル(UnivTsukubaLibrary-tutorial)から提供することにより、手軽にどこからでも見られるようにしました。

2015年度末に提供を開始したところ、これまでに月に平均260回以上視聴され、活用いただいている様子が見ええます。



チュートリアルビデオ一覧

3. プロモーションビデオの制作

2016年度に制作することになったPVは、限られた予算の中でしたが、芸術系の村上史明先生にご協力いただき、芸術専門学群構成専攻で専門教育を受けている学生さんに制作を依頼することができました。これにより、学生にとっては制作実習の機会となるとともに、図書館にとっても学生目線を取り入れつつ、完成度の高いものを作ることが可能となりました。

制作の前には、各館を詳細に案内する等して図書館を知っていただき、図書館の制作意図等についても理解していただきました。実際のPVの内容については、基本的にお任せし学生さんの視点や発想、技術が反映されるようにしました。

制作を指導・監修いただいた村上先生によると、PVは、あえてテロップや言葉を入れないことで留学生等にも伝わるものとし、新鮮な視点で日常をとらえ、そこに日々の喜びや幸せをとらえられるような現代の最先端の要素を含めた映像とした、とのことでした。



プロモーションビデオ制作風景

この観点から作られたPVは、本を借りる、キャレルで勉強する、友人達と談笑する、といった日々の風景を若い感性で魅力的にとらえ、その中に楽しみや幸せが感じられる、そういう場としての図書館の魅力を伝えるクオリティの高いものとなりました。

完成したPVは、図書館のYouTubeチャンネル(UnivTsukubaLibrary-pv)で公開し、新入生対象のオリエンテーション等で活用するとともに、大学や図書館のホームページ、学内のデジタルサイネージでも投影していきます。

(アカデミックサポート課主幹(ビデオチーム主査) 廣田 直美)



4. 体育・芸術図書館に「ユーリカ!」を整備

1. 愛称「Eureka ユーリカ!」

2016年10月、体育・芸術図書館(以下、体芸図書館)に新しい学習空間「Eureka ユーリカ!」(以下、「ユーリカ!」)が誕生しました。「Eureka」という言葉は、ギリシャ語で「わかった」「見つけた」という意味で、アルキメデスが叫んだ言葉として知られています。この愛称は、ラウンジを整備するにあたり、企画段階から無償で協力してくれた2名の大学院生に命名してもらいました。この場所が「ひらめきの場所となるように」という想いがこめられています。

2. 民間の助成金による学修環境整備

2階ラウンジ整備の検討を始めたのは、「自由に会話をしながら勉強できる場所がほしい」という利用者からの要望がきっかけです。2014年度に、まずはスペースを確保するために壁一面をふさいでいた視聴覚ブースを別の場所に移し、グループ学習用のテーブルを1台移設しました。

2015年度には、2階ラウンジをアクティブラーニングスペースとして整備するため、その財源を得る手段として、外部資金の獲得を目指しました。5月下旬頃から「田嶋記念大学図書館振興財団助成事業」に応募する検討を始め、デザインを勉強している学生さん達の協力を得て、「アートとスポーツに特化した学習空間」をコンセプトとした空間作りを計画しました。企画内容をまとめ10月下旬に財団に申請書を提出し、翌年の3月に採択の通知をいただきました。

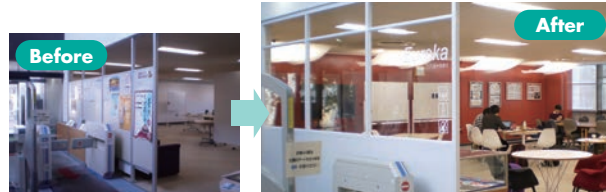
2016年度は、獲得した外部資金を使い、予算に合わせた整備を検討しました。ラウンジ内の新聞閲覧コーナー以外のスペースを、グループ学習エリアとミニギャラリーの2つのエリアに分け、整備することとしました。



全体風景

学生の自主的なグループワークや授業など多様な用途に対応できる学習空間を作ると同時に、ギャラリー機能を持たせ、芸術の学生や教職員に作品や研究成果を発表する場を提供できるようにしました。ギャラリーにはショーケースを置き、体芸

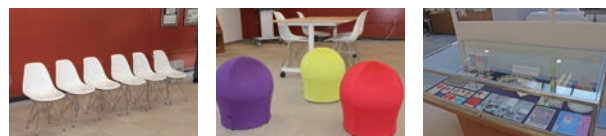
図書館の貴重なコレクションである1964年東京オリンピック関係資料を常設しました。さらに、入館ゲートとラウンジの間の仕切りを透明なものに変え、開放的な空間を作り、入館者を惹きつける効果とセキュリティ効果をアップさせました。



透明な仕切りパネルに変更

什器類にもこだわり、オフィス用の机や椅子の代わりに、体幹を鍛えることができるバランスボールチェアや意匠性の切れたデザイナーズ家具のリプロダクト品(イームズチェアやイスラムノグチのサイクロンテーブルなど)を導入しました。

展示パネルは、高さのあるピクチャーレール付を選び、絵画などの展示も可能としました。エリア内には、図書館ボランティアが整理している展覧会のポスターも掲示しています。



イームズシェルチェア

バランスボールチェア

ショーケース

3. 学生との協働

壁面の塗り替えでは、色彩の心理的影響や部屋全体のバランスを考慮して色の選定を行いました。ここでも、学生さん達に協力してもらい、新しい什器が設置された7月頃、壁を背景にした全体写真を基に、14種類の色のシミュレーションを作成してもらいました。

ラウンジのベースカラーは、部屋の約70%を占める床や天井、机などのページジュで、アクセントカラーは、ソファの紫や古い机の茶、椅子の白、スツールの赤、紫、黄色などになります。



学生作成の検討資料



愛称のロゴとサイン

それぞれの面積比からバランスを取る手法で、空間全体の調和を図るアソートカラー(協調色)を検討していきました。

イエローブラウン、パールイエロー、レッドブルーなどが候補に残りましたが、最終的に暖色系の中間色であるオレンジレッドを選びました。この色は気力回復などの効果があるとされています。学生さんには、職人さんが塗装作業をする際、何度も色のチェックをしてもらいました。

さらに壁際の蛍光灯の光が壁に反射するのを押さえるために、学生さんの発案で土佐和紙を使った照明カバーを考えました。事前にメーカーや施設部に安全性を確認した上で、学生さんが蛍光灯との距離などを計算しながら、手作りで完成させました。

また、リニューアルオープンに向け、愛称のロゴとサインも考えてもらいました。透明の仕切りパネルに白のロゴとサインを載せるために、白地のシートに文字やサインを白抜き文字で印刷し、職員と学生さんとでカッターを使い、切り絵のように不用部分を切り抜いて作成しました。

4. オープンセレモニー

2016年10月、リニューアルのオープンセレモニーを開催しました。協力してくれた人間総合科学研究科の大学院生2名に西川附属図書館長から感謝状と記念品が贈呈され、愛称「ユーリカ!」のお披露目も行いました。また、セレモニーに合わせ芸術専門学群の学生さんが制作してくれた写真の作品が空間に彩りを添えてくれました。



リニューアルオープンセレモニー



協力してくれた瀬川さん(左)と工藤さん(右)



西川館長の挨拶



作品を展示してくれた武石さん



手作りの葉

5. 最後に

リニューアル後、「ユーリカ!」では教員主催の企画展を2つ開催しました。今後は、マスキングテープを使って壁面をデザインするという計画もあります。「ユーリカ!」は、学生さんと力を合わせて作り上げた学習空間です。これからも学生さんのアイデアで、成長し続ける空間となってくれることを願っています。また、スポーツとアートの図書館として、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた大学の取組を支援し、図書館を活用した教育を推進していきたいと考えています。



「マンガでシェイクスピア展」(人文社会系吉原ゆかり准教授主催)



「伊藤幾久造の美人画と怪人画-70年ぶりに甦る『霞ヶ浦の乙女』」(芸術系齊藤泰嘉教授主催)

(アカデミックサポート課主幹 中村 洋子)

5. 知的好奇心を刺激するイベント・展示の開催

2016年3月末に中央図書館本館2階ラーニング・スクエアを大幅にリニューアルし、可動式の机や椅子を組み合わせられるグループ学習スペースを約3倍の広さに拡張して「チャットフレーム」と名付けました。前ページで紹介した「ユーリカ!」とあわせて、2016年度は自由な発想でグループでの議論やイベント・展示に活用できるスペースの整備と活用の促進に重点的に取り組みました。

広報チラシ「Prism」やSNS等を通してこれらのスペースの活用を呼びかけたところ、学生や教員から従来の枠にとらわれない楽しい企画が数多く提案されるようになりました。このページでは、その中から6つのイベント・展示をご紹介します。

1. Pepper朗読会

呑海研究室(図書館情報メディア系)では、図書館サービスにおけるロボット活用の可能性を探っており、図書館情報学図書館の春日ラーニングcommonsと中央図書館チャットフレームを会場にコミュニケーションロボットPepperによる朗読会を開催しました。この模様は当日のNHKニュースでも放映され、Pepperと触れ合う学生達の様子が呑海沙織教授による解説とともに伝えられました。

Pepperの愛らしい仕草や絶妙な受け答えは学生達の興味を惹き、多くの飛び入り参加を呼び込みました。特にチャットフレームではリニューアルで広げられた空間を活用した初めての企画として35名の参加者を集め、これまで図書館が企画してきたセミナー形式のイベントと一線を画す試みとなりました。



学生とおしゃべりするPepperくん(5月27日)

2. YOGA -Talk and Exercise-

チャットフレームの活用にあたっては、教室移動等で多くの学生が行き交う中央図書館のメインフロアにあるという立地条件を活

かして、ふらっと立ち寄った人が飛び入り参加できるセミナーやイベントを日常的に開催していくことを意識しました。

ラクワル・ランディープ教授(体育系)によるヨーガセミナーは、図書館と運動という見相容れないものをひとつのイベントとして結びつけました。当日はヨーガ・インストラクターの高橋玄朴氏を招き、前半でヨーガにまつわる歴史や思想についてのレクチャー、後半で実演を交えたヨーガの体験が行われました。この体験は車椅子でも参加できるよう椅子に座ったまま実施され、途中からの参加も含め25名を集めました。



フロアの真ん中に出現したヨガ教室(6月21日)

3. 選挙の展示・イベント

第24回参議院議員通常選挙にあたり、6月27日から29日までの3日間、中央図書館に期日前投票所が設置されました。これは、公職選挙法の改正により、選挙権年齢が20歳以上から18歳



企画展示:投票に行こう!(6月22日~7月9日)

2016年度に実施したイベント・展示の一覧は本誌16~18ページに掲載しています。
 あなたも附属図書館でイベント・展示を開催しませんか。以下のページから申込書入手し、担当までお送りください。
 [イベントスペースのご利用はこちら] <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/event-space>
 [展示スペースのご利用はこちら] <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/exhibition-space>



ラクワル先生の「使える! 英文ライティングセミナー」

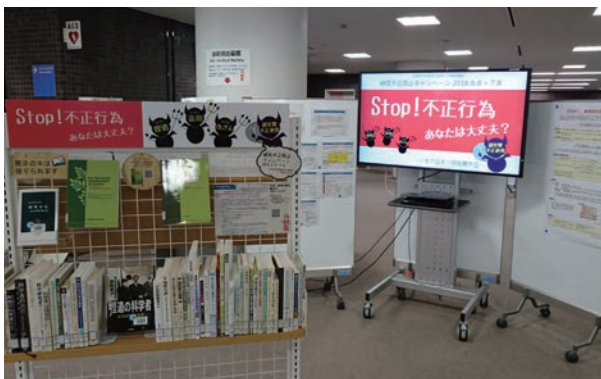
以上に引下げられることに伴い、学生等の要望を受け、つくば市選挙管理委員会が設置を決定したものです。

期日前投票所の設置にあわせ、学生が自主的に企画した2つの関連展示「投票に行こう!」、「若者政治意識向上プロジェクト」とトークイベント「社会問題について語ろう。」が、ギャラリーゾーンとチャットフレームで実施されました。投票する意義や、期日前投票の方法等について周知を図るとともに、今回の選挙の争点について意見交換が行われ、投票への関心を高めることにつながる催しとなりました。

4. 研究不正防止キャンペーン2016

附属図書館全館で、2015年度に引き続き研究不正防止キャンペーンを実施しました。2016年度は、教員だけでなく学生にも研究費の不正使用防止の周知を進めている財務部と協力し、「捏造」「改ざん」「盗用」に加え、「研究費不正使用」防止の意識向上を狙った合同企画としました。

テーマに関連する書籍等の展示に加え、デジタルサイネージや大判ポスターを作成し、多面的なコンテンツにより全体としての訴求力が増した展示企画となりました。また、学外の研究者等も多く訪れる図書館を会場としたことで、研究不正防止が各研究機関において重要な課題であり、大学としても厳しい姿勢で臨んでいることを効果的にアピールすることができました。



2016年度は全館で一斉に開催(6月6日～7月8日)

5. AFRICAN ACADEMIC AND CULTURAL WEEK 2016

グローバル・コモンズ機構との協力により、アフリカからの留学生が各々の出身国の文化を紹介する展示とイベントが開催され、中央図書館が1週間鮮やかなアフリカ色に染まりました。

アフリカ諸国の写真と情報を掲載したポスター展示のほか、日替わりで、各国ブースでの民芸品やアクセサリ、楽器等の展示、スライドによる紹介が行われました。また、民族衣装の試着

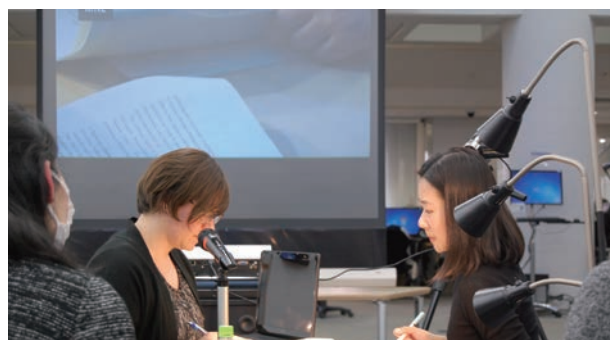
や、カリグラフィー体験も行われ、それぞれの国の文化を体感できるにぎやかな催しとなりました。



アフリカ各国を日替わりで紹介(12月12日～16日)

6. 体感!海外ライティングサポート

より良いレポートや論文を書くための指導・アドバイスが受けられる「ライティングセンター」は、近年国内の大学でも開設が相次いでいます。その指導を体験し、海外での実情を知るイベントとして、オハイオ州立大学ライティング教育指導センターのジアイーモ博士による公開ライティング指導ワークショップと、同大学での取り組みを紹介する講演会を中央図書館内で開催しました。これは比較文化学類「筑波大学グローバル・コモンズ連携プログラム」の一環で企画され、研究領域や立場によらず多くの方が気軽に参加できるように、開放的な雰囲気を持つチャットフレームが会場として選ばれました。イベントは2日間に分けて行われ、将来留学を考えている学生やアカデミック・ライティングに興味を持つ教職員など、学内外から多くの参加者が集まりました。



学生の英語論文を指導するジアイーモ博士(1月18日)

(公開・ボランティア係長 鴨志田 美由喜

ライティングサポート係長 渡邊 朋子

企画渉外係長 峯岸 由美/係員 石津 朋之)

6. 2016年度筑波大学附属図書館特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」

1. 特別展概要

2016年度の特別展は、「歴史家 二宮宏之の書棚」と題して、10月11日(火)から11月13日(日)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の特別展は、附属図書館と人文社会科学研究科との共催により開催し、津崎良典准教授の企画・立案のもと、附属図書館職員9名のワーキンググループが、附属図書館研究開発室の谷口孝介教授、山澤学准教授のご協力を得て実施しました。

二宮宏之氏は、フランス絶対王政期の国制史、社会史、思想史を専門とし、旧蔵洋書約9,000冊を筑波大学附属図書館に寄贈されました。膨大な冊数におよぶ旧蔵書の受入には、4年の歳月を要しましたが、二宮氏歿後10周年の年に全ての受入作業が終了し、特別展を開催する運びとなりました。今回の特別展は、それらのなかから稀覯書を中心に、歴史家二宮宏之の肖像と仕事に触れることが出来る約50点の書物を展示し、一般に広く公開するものです。

2. 展示構成

展示は2部構成で、第1部「歴史家の肖像(ポルトレ)」では、二宮氏と交流のあった日本とフランスの歴史家の書物を中心に展示を行いました。二宮氏が譲り受けた、仏文学者として著名な渡辺一夫の旧蔵書をはじめ、敗戦後の日本では入手困難だったマルク・ブロックの代表作など、歴史家二宮宏之の誕生に不可欠とされた書物などを紹介しました。

第2部「歴史家の仕事(メチエ)」では、二宮氏が代表的な著作を生み出す際に用いたと思われる17世紀から18世紀のフランス、イギリス、オランダで刊行された王令・法令集などを展示しました。執筆の際に読み解いたであろう貴重な書物、そして執筆がかなわなかったドラマールに関する書物、最後の著作となった『マルク・ブロックを読む』に関する書物などから、二宮氏の歴史家としての仕事をうかがい知ることが出来ます。

また、本特別展には、『二宮宏之著作集』を刊行した岩波書店の後援があり、二宮氏直筆の書簡や校正原稿などもあわせて展示しました。

3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。今回は図録の執筆にあたり二宮素子様(宏之氏夫人)をはじめ、多くの関係者の皆様にご協力いただきました。多様なテーマで開催される特別展の図録は、会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

4. 座談会・ギャラリートーク

特別展会期中の10月21日(金)に、特別展開連企画としては初めての試みとなる「座談会」を開催しました。特別展の企画・立案者である津崎良典准教授の司会で、登壇者には二宮宏之氏の教えを受けた林田伸一氏(成城大学)、高澤紀恵氏(国際基督教大学)をお迎えし、歴史家二宮宏之の仕事と魅力など、自由に語っていただきました。当日は、二宮氏にゆかりのある方々も含め52名が参加され、予定時間を大幅に延長しての有意義な座談会となりました。

また、特別展会期中には津崎良典准教授によるギャラリートークも6回開催され122名が参加し、展示資料の詳細な解説に耳を傾けました。本特別展には、学内外から一般の来館者に加え、多くのフランス史研究者など、1,968名が訪れ貴重な資料を観覧しました。



津崎良典准教授によるギャラリートーク

5. 電子展示

附属図書館特別展は、貴重書展示室で公開する現物展示に加え、電子展示の公開も行っています。電子展示は、通常の展示では提供できないような情報を付加し、附属図書館webページから公開されています。

その内容としては、特別展ホームページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介を行うほか、Twitterなども活用し展示会場の様子や、日常のホットな話題などを提供しています。

2016年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2016nino/index.html>

(情報企画課主幹(特別展WG主査) 大久保 明美)

フランス史研究の宝庫・二宮文庫ついに公開

1. 開学以来、最大規模の寄贈

本学の附属図書館の文庫は、今日、約80点を数えます。そのなかでも最新かつ最大のものが、歴史家・二宮宏之氏(1932～2006年)の旧洋蔵書からなる二宮文庫です。

二宮氏は、長らく東京外国語大学で教鞭をとられ、フランス絶対王政期の国制史や思想史のほか、フランス革命史や社会史の分野で多大な業績をあげられました。本文庫は、二宮氏が研究と教育の現場でじっさいに使用された洋書(雑誌を含む)約9,000冊から成り立っています。

1850年以前に刊行された貴重書ならびに雑誌を除く全資料は、大塚図書館に開架されており、貸出対象となっています。すでに内外の読書人から貸出の要望が数多く寄せられています。貴重書のほうは、中央図書館貴重書庫に所蔵されており、その電子化については、今後検討される予定です。

本文庫の配架については、二宮家の書斎における排列をほぼそのまま踏襲しており、二宮史学の全容を俯瞰することができます。ただ、このような配架を実現するには、請求番号に工夫を凝らす必要がありました。そこで附属図書館では、分類ラベルの一段目にはNDCを、二段目の著者記号には二宮氏の著者記号を一律に記載することにしました。さらに三段目には、二宮氏が独自に編み出した13個の分類を反映させることにしました。こうすることで、寄贈者による資料の排列法をできるだけ尊重しながら、NDCの体系に組み込むことが可能になりました。

2. 公開まで苦節十年の長い道のり

二宮氏の歿後、旧洋蔵書の一括寄贈のお申し出を遺族の二宮素子氏より本学の立川孝一名誉教授(フランス史学)が正式にお受けしたのは、立川先生が在職中の2008年のことでした。その後、立川先生は2013年に定年退任を迎えられたため、文庫の受入調整役は、二宮氏と同じく17世紀フランスを専門領域とする津崎良典准教授(哲学)に引き継がれました。

附属図書館のほうでは、植松貞夫旧図書館長が寄贈にかかる相談をお受けしましたが、当時、中央図書館が耐震改修工事中であったため、直ちに受入作業に取り掛かることはできませんでした。本格的な作業開始は、2012年、中山伸一前図書館長の時代に入ってからのことです。その後、2016年にすべての関連作業が終了しました。

二宮氏がこの世を去ってから十年、長い年月を要した旧洋蔵書の受入作業は、附属図書館にとって文字通り一大事業でした。



二宮宏之氏(東京外国語大学研究室にて、1994年頃撮影、二宮素子氏提供)

3. 注目のコレクションはこれだ!

二宮文庫の資料面での特徴は、関連領域の主要二次文献を網羅しているのみならず、16世紀から18世紀にかけてヨーロッパ各国で刊行された王令・法令集などの貴重な一次資料が数多く含まれていることです。代表的なものを出版年順に列挙してみましょう。

17世紀からは、ロワゾー著『官職論ならびに権力論、身分論』(パリ、1613年)、ゴドフロワ父子著『フランス儀典書』(パリ、1649年)、ネロン/ジラル編『いともキリスト教的なる国王フランソワ一世、アンリ二世……の王令集』(パリ、1666年)、そしてフォーヴレ・ドゥ・ト著『国務卿職の歴史』(パリ、1668年)などが注目されます。18世紀では、トゥサン著『習俗論』(パリ、1755年)、デュ・シェヌ著『ポリス法典あるいはポリス規則概要』(パリ、1757年)、アレツ著『フランス国王成聖式の手引き』(パリ、1775年)、スヴネ『ムラン国王裁判所管区の慣習法』(パリ、1777年)などが興味をひきます。いずれもフランス史研究に欠かせない資料です。

それ以外に本文庫には、生前の二宮氏が深い学問的交流を重ねられたフランスを代表する歴史家たちからの献呈本も数多く含まれています。アルペール・ソブール(1914～82年)、ピエール・グーベール(1915～2012年)、ジャック・ルゴフ(1924～2014年)、モーリス・アギュロン(1926～2014年)、ピエール・デヨン(1927～2002年)、ジャン＝ルイ・フランドラン(1931～2001年)などです。二宮氏の歴史家としての軌跡を同時代史的に証言する貴重な資料であると言えます。

(人文社会系准教授 津崎 良典)

5 職員の活動

1. 平成28年度 グローバル・スタッフ育成室海外短期派遣研修報告

2017年2月20日から27日にかけて、本学グローバル・コモンズ機構「平成28年度グローバル・スタッフ育成室海外短期派遣研修」として、US-JAPAN FORUM主催の「グローバルプロ基礎コース」へ本学学生部・長嶋氏と共に参加をしました。

当該コースは全国の大学生・大学院生を対象とした、国際社会で活躍できる人材に必要なスキルを学ぶため、海外の企業、大学などで活躍するプロフェッショナルの方々（今回は日本人9割）を訪問し、講演やディスカッションなどを行うプログラムです。本学の参加者は例年学部・大学院生がメインとのことで、職員の参加は今年が初めてでした。



Google本社訪問



研修参加者とスタンフォード大学前にて

1. 訪問先について①～大学～

スタンフォード大学とカリフォルニア州立大学バークレー校(UCバークレー)を訪問しました。両校はカリフォルニア州にある名門校でシリコンバレーに近いこともありITや機械工学などの分野で優秀な人材を輩出し続けています。

UCバークレーにはスケジュールの都合上僅か15分に満たない滞在時間でありましたが、スタンフォード大学には約半日滞在ができ、施設見学後、医学部・歴史学部の日本人教員からお話を伺いました。学費が高いことでも有名なスタンフォードですが、公的・私的なもの併せて奨学金制度が大変充実しており「結果を出せば」返済の必要がなくなる貸与型も数多くありました。また専門性や技術力がある学生とコネクションや財力を持つ学生や投資家達とのマッチングも盛んで、優秀な人材には惜しみなく投資がなされるチャンスにあふれた環境・文化のようです。

2. 訪問先について②～企業～

IT・バイオ・工学などシリコンバレーにある様々な規模の企業を訪問し、お話を伺いました。日本でも名の通ったGoogle、Apple、Intelから（「猫耳」で有名な）NueroSkyなどのベンチャー企業までの計24社です。中でもGoogleはセキュリティが厳しく普通は中々入れないのでこの機会にご案内頂けたことは大変幸運なことでした。訪問したのは午前中でしたがとても広大なオフィス（「キャンパス」と呼ばれる）にてゲームセンターで遊ぶ方、気分転換でランニングをする方、散髪をする方、食事をする方など（ほとんどが「無料」です！）様々な時間を過ごす方がおり、とても特徴的でした。やることをやれば時間の使い方は自由という成果・裁量主義のアメリカがそこにはありました。Appleでは3名の日本人の方にご案内いただきましたが、かのジョブズ氏がAppleを離れた後に創立したNeXT時代からのエンジニアの方もおり、とても興味深いお話を伺えました。

3. 研修を通して感じたこと

多くの気づきがありましたので、とりわけ印象的であった2つのことにのみ触れさせていただきます。

1. 「グローバル」の認識について

冒頭から度々登場している表現ですが、現地で活躍されている方はその専門性を持った結果どこでもやっていけるいわゆるグローバルな人材となったのであり、グローバル化を目的としていた訳ではありません。大学としても今一度学生への伝え方を考えていく必要を感じました。

2. 「海外で活躍する日本人」とは～大学のこれから～

今回お会いしたプロフェッショナルの方々の共通点として、皆卓越した専門性を持ち武器にしている点と、元々日本で仕事や研究をしていたものの、待遇・競争・レベルアップのために海外に移っていった方が多いという点がありました。私はそういった素晴らしい能力を持つ方が日本を「出て」行ってしまっているような現状に危機感を覚えました。もちろんアメリカが全て良いとは思いませんが、理由の中には年功序列、抑圧、男女差、偏見といった言葉も散見され、とても残念に思えました。

日本国内でも彼らの力を発揮できるよう、学内の研究・教育環境の整備、学外では産学連携などにより、適切な評価がなされるパートナーの拡大をしていく必要性を感じました。また、今後変化する大学の環境において我々職員も共に変わっていかねばならないことに対して身が引き締まる思いです。

最後になりましたが、今回研修への参加を助めてくださり、快く送り出して頂きました附属図書館の皆様にご礼申し上げます。

（利用者支援担当 木野村 和人）

2. 機関リポジトリ推進委員会協力員活動報告

機関リポジトリは、研究機関がその知的生産物を電子ファイルとして集積・保存・公開するために設置するインターネット上のアーカイブシステムです。現在では日本国内のほとんどの大学が機関リポジトリを備えています。担当者たちはそれぞれ個別の悩みや共通の課題を抱えています。

機関リポジトリ推進委員会(以下IRPC)は、機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築に関する事項を企画・立案し、学術情報の円滑な流通を推進するために結成された組織です。それを引き継ぐ形で、2016年7月には日本における機関リポジトリを振興・相互支援することを活動目的とする新たな機関リポジトリコミュニティ、オープンアクセスリポジトリ推進協会(以下JPCOAR)が発足し、2017年3月をもってIRPCの活動は終了しました。「つくばリポジトリ」を運用する筑波大学附属図書館からもこの二つの組織に参加し、全国の機関リポジトリ担当者と連携して、国内の諸課題に取り組んできました。以下にその活動を紹介합니다。

1. 広報作業部会

「広報作業部会」はIRPC内の作業部会の一つで、名称通り、IRPCおよびJPCOARの活動についての広報を担当しています。

広報作業部会の今年度の活動は大きく分けて以下の三つです。

- IRPCおよびJPCOAR Webページの整備・情報発信
- JPCOARイベント企画・運営
- 国際協力

このうち当館のメンバーが参加した活動は情報発信とイベントの企画・運営です。情報発信の面では、JPCOARが新たに発足した事に伴い、専用Webページの構築、および加盟機関募集パンフレットの作成を行いました。Webページは下記のURLからアクセスが可能です。

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

上記のWebページはJPCOAR参加機関のリポジトリ担当者同士が交流する場として今後も積極的な整備を行います。

パンフレットについても掲載内容やデザイン等、作業部会内での決定を経て、近日中に発行される予定です。

11月には第18回図書館総合展において、IRPCおよびJPCOARによる共催でオープンフォーラム「リポジトリの未来を考える：オープンサイエンス時代の到来を迎えて」が実施され、広報作業部会はこのフォーラムに企画・運営という形で携わりました。当日は多数の参加者により我が国のリポジトリの未来についての活発な議論が交わされました。

広報作業部会としては、JPCOARが国内機関リポジトリ保有機関

の健全なコミュニティに育っていくためにも、加盟機関増加を急務と考えており、その為の活動をJPCOARに引き継いでいく考えです。

2. 研修作業部会

IRPCでは、国立情報学研究所およびデジタルリポジトリ連合(DRF)の活動を引き継いだ研修を行っており、今年度は「機関リポジトリ新任担当者研修」とした講習会を全5回(東京3回、長崎1回、神戸1回)開催しました。

国内では、機関リポジトリを構築する研究機関が増加しており、その設置数は2016年には680を越えています。

これは、博士学位論文の公開や大学紀要の発行はもちろん、教育研究成果の積極的発信に機関リポジトリによって応える図書館の活動を示すと同時に、研究の場における情報循環を保持する大学や研究機関の姿勢を表す数字でもあります。

そうしたオープンアクセスの流れを推進するために、同研修では機関リポジトリの理念をはじめ、その発展における社会的背景やシステムとしての仕組みを解説し、さらに受講者の参考となるような、学内での情報共有対策や研究者へのアプローチを実習するなど、様々な講義を設けています。

終了後の受講者アンケートには、講義内容への感想のほか、他機関との情報交換の場となったことへの満足が示される一方で、より詳細な説明や新たな講義、また多くの事例紹介を希望する声もありました。各機関の置かれる環境は全く違うものであっても、理念を共有した上でこのシステムを運営することが、機関リポジトリの活用拡大に繋がるのではないかと感じています。

オープンアクセスは、論文形式の教育研究成果に留まらず、研究データへどのように対応するかという新たな段階に入りつつあります。研修作業部会においても今後はそうした状況を踏まえた活動のJPCOARへの継承を進めていきます。

(リポジトリ係長 船山 桂子／係員 中原 由美子
レファレンス担当 松野 渉)



オープンフォーラム(2016.11.9 於 第18回図書館総合展)

5 職員の活動

3. 論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1. 執筆活動

大和田康代, 松野渉, 特集, 大学図書館 今後の展望: 学習支援は「学生視点」から! : ラーニング・アドバイザーとの協働. 図書館雑誌. 2016-12, vol.110, no.12, p.758-759.

論文要旨:

筑波大学附属図書館(以下, 当館)では学生の能動的学修をサポートするため, 本学大学院生をラーニング・アドバイザー(以下, LA)として雇用し, 本学学生を対象とした学習支援活動を行っている。本稿では当館のLA制度の概要と最近の活動を紹介する。

[つくばリポジトリ](http://hdl.handle.net/2241/00145137)

<http://hdl.handle.net/2241/00145137>

岡部幸祐, 小特集, 情報リテラシー: 高等教育のための情報リテラシー基準2015年版の策定経緯と活用方法. 大学図書館研究. 2017-03, No.105, p.30-41.

論文要旨:

本稿では, 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の情報リテラシー教育検討小委員会で策定した「高等教育のための情報リテラシー基準2015年版」(以下「情報リテラシー基準」という。)の検討経緯を報告するとともに, この情報リテラシー基準の基本的な考え方を記し, 実際に図書館が学習支援に取り組むにあたって, 大学の教育ポリシーを踏まえた情報リテラシー教育の企画策定や教員とのチームティーチングなどの連携等において, どのように活用できるかを述べる。

[大学図書館研究](http://jilib.jp/ojs/index.php/daitoken/article/view/1480) ※刊行後1年間はエンバーゴ期間中

<http://jilib.jp/ojs/index.php/daitoken/article/view/1480>

2. 講師・事例報告

開催日	氏名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2016.9.12	浅野ゆう子	平成28年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー 【テーマ】雑誌と電子リソースの業務 【スライド】 http://hdl.handle.net/2241/00144193
2016.9.19	がまじゃんぱー and 石津 朋之	Tsukuba Global Science Week 2016 セッション32「産官学連携コンテンツビジネスがひらく未来と世界の未来」 【テーマ】がまじゃんぱーって要るんでしょうか? ～筑波大学附属図書館における広報キャラクターの活用事例～ 【スライド】 http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/?page_id=4559
2016.11.9	佐藤 初美	図書館総合展フォーラム「NACSIS-CAT/ILLと電子リソース:2020年の学術情報システム」 【テーマ】NACSIS-CAT検討作業部会の検討状況について
2016.12.16	真中 孝行	JAIRO Cloud運用作業部会による「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行勉強会」 【参考URL】 https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/
2017.2.14	廣田 直美	平成28年度国立大学図書館協会地区協会助成事業(東京地区) 図書館職員研修会「ユーザーに届く図書館広報」 【テーマ】筑波大学附属図書館における映像を活用した広報の事例紹介 【スライド】 http://hdl.handle.net/2241/00145297



第2回キャラGPでも4つの賞を受賞

4.職員研修会

2016年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計13回行いました。

日 時 ・ 場 所		参加人数
テーマ	講 師	
2016.5.31 新館2階会議室		14名
新任図書館職員研修会(1)	江川和子(学術情報部長)、岡部幸祐(情報企画課長)、佐藤初美(アカデミックサポート課長)	
2016.6.3 新館2階会議室		2名
新任図書館職員研修会(2) 「先輩に聞く筑波大学附属図書館のお仕事」(座談会)	石津朋之、清水彩代、高島恵美子、浅野ゆう子、永濱恵理子、岩本悠、中原由美子、松野渉、塩澤美咲、田村香代子、大樂絢奈	
2016.6.21 集会室		36名
第1回コアスタッフ勉強会「附属図書館から学術情報部へ(大学図書館が直面する諸課題)」	江川和子(学術情報部長)	
2016.7.26 集会室		37名
第2回コアスタッフ勉強会「カフェのつくりかた」	岡部幸祐(情報企画課長)	
2016.9.7 新館2階会議室		9名
インターンシップ成果報告会	稲森千夏、小野真実、大房叶(情報学群 知恵情報・図書館学類3年)	
2016.12.12 集会室		部内26名 (全体48名)
大学図書館における障害学生支援～障害者差別解消法の施行を受けて(平成28年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会 兼 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会)	飯塚潤一(筑波技術大学教授)、福井恵(筑波技術大学視覚障害系図書館)、小林泰名(北海道大学附属図書館)	
2017.1.25 集会室		11名
平成28年度大学図書館職員短期研修参加報告会	松野渉(レファレンス担当)、大樂絢奈(大塚図書館担当)、木野村和人(利用者支援担当)、清水彩代(選書担当)	
2017.1.31 集会室		34名
第3回コアスタッフ勉強会「千葉大図書館のススメ。」	中原由美子(リポジトリ担当)	
2017.2.10 新館2階会議室		6名
「自動貸出機を対象とした認知心理学実験」 (附属図書館が協力を行った卒業研究の報告)	小野瑞生(人間学群 心理学類4年)、原田悦子(人間系教授)	
2017.2.28 集会室		40名
平成28年度研究開発室研究成果報告会	研究開発室員および協力者	
2017.3.15 集会室		16名
「大学図書館における障害者サービスの合理的配慮に関する実態調査」(附属図書館が協力を行った卒業研究の報告)	竹田咲子(知恵情報・図書館学類4年)、小泉公乃(図書館情報メディア系助教)	
2017.3.22 新館2階会議室		14名
研修報告会 1.[講演報告/参加報告]平成28年度国立大学図書館協会地区協会助成事業(東京地区)図書館職員研修会「ユーザーに届く図書館広報」 2.[参加報告]平成28年度国立大学図書館協会シンポジウム「これからの大学図書館環境を考える」 3.[出張報告]平成28年度グローバルスタッフ育成室海外短期派遣研修	1.廣田直美(アカデミックサポート課主幹)、石津朋之(企画渉外担当) 2.渡邊朋子(ラーニングサポート係長)、中原由美子(リポジトリ担当) 3.木野村和人(利用者支援担当)	
2017.3.28 集会室		37名
第4回コアスタッフ勉強会「大学作成マネジメントシステムについて～情報ガバナンスと大学作成情報のメタデータの収集について～」	西田幸男(情報ガバナンス係長)、嶋田晋(デジタルライブラリ係長)	

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2016.4.1	事務組織改組により学術情報部発足（情報企画課、アカデミックサポート課、情報基盤課） （体芸・医学・図情図書館）学期中平日の早朝開館を正式運用開始 （月～金 9:00～22:00 → 8:30～22:00） （医学図書館）休業期間中の開館時間延長試行を継続 （医学類の授業が休業期間にかかる期間にも実施されていることから、学期中と同じ時間で開館） （大塚図書館）年末年始の時間外無人開館を正式運用開始（9:00～23:00） （大塚図書館）多目的学習室の予約制限時間延長を正式運用開始 （1グループにつき1日1回2時間以内 → 1日1回3時間以内） 筑波キャンパス内の図書の取り寄せサービス（試行）を継続 （中央図書館）学生サポートデスクの予約制試行を継続
2016.4.25～9.30	熊本地震被災地域の大学等所属者に資料の貸出等のサービスを実施
2016.6.27～6.29	（中央図書館）第24回参議院議員通常選挙において、集会室に期日前投票所を設置
2016.7.5	マイライブラリに、図書館所蔵の本の情報をフォルダを作成して保存する機能を追加
2016.8.3	（中央図書館）ARE（先導的研究者体験プログラム）参加学生の研究個室利用正式運用開始
2016.8.11	（体芸・図情図書館）オープンキャンパスの開催に合わせて臨時閉館
2016.8.22	台風9号接近のため全館で10:30に臨時閉館
2016.8.30	台風10号接近のため14:00まで臨時閉館（大塚図書館は通常開館）
2016.9.20	台風16号接近のため大塚図書館のみ20:00に臨時閉館
2016.11.9～11.11	（中央図書館）つくば市長選挙、つくば市議会議員一般選挙において、集会室に期日前投票所を設置
2016.11	大日本佛教全書（オンライン版）他を購入
2016.12.8～12.9	（中央図書館）利用者行動調査を実施
2016.12.12	第18回図書館総合展(2016.11.8～11.10)で開催された第2回図書館キャラクターグランプリで、附属図書館キャラクター「がまじゃんぱー」がウェブ応援賞最優秀賞、会場応援賞第3位、Clarivate Analytics賞、きぐるみ賞を受賞
2017.1	Oxford English Dictionary(OED) Online を導入
2017.1.26～3.31	クラウドファンディングプロジェクトを実施
2017.2.28	研究開発室研究成果報告会を開催
2017.3	Springer 社電子ブック他、コレクションを拡充

2. 施設・設備

日 付	内 容
2016.4.1	（中央図書館）ラーニング・スクエアをリニューアルオープン
2016.10.1	（体芸図書館）ラウンジ（愛称「ユーリカ!」）をリニューアルオープン
2017.1.5	（中央図書館）キャリアゾーン、国際交流コーナーをリニューアル
2017.3.13	（中央・体芸・医学・図情図書館）グローバル・コモンズより移設のデジタルサイネージを設置
2017.3.13	（中央図書館）書架増設 本館3・5階、新館3・4階

3. イベント・セミナー・授業

日 付	内 容	場 所
2016.4.27～2017.1.25	ソクラテス・サンバ・カフェ（主催：筑波大学哲学カフェ） 第4水曜日に計6回開催	エントランス、 チャットフレームB、C
2016.5.11/5.23	プレゼンひろば2016（主催：つくば院生ネットワーク）	エントランス
2016.5.27/6.10	Pepper 朗読会（主催：吞海研究室（図書館情報メディア系））	図書館情報学図書館ラーニング コモンズ、チャットフレームB
2016.6.17/6.21/6.27/6.28	社会問題について語ろう。（主催：T-ACT「投票所設置プロジェクト」）	チャットフレームC、エントランス
2016.6.21	YOGA-Talk and Exercise-（講師：高橋玄朴（ヨーガインストラクター））	チャットフレームB
2016.7.1/7.8/7.15	地球学類共通科目「地球学基礎セミナーA」 （担当教員：池田敦（生命環境系））	チャットフレームB、C、 コミュニケーションルーム
2016.7.4/10.3/12.2/ 2017.2.15	おりがみ講習会：Origami Workshop	チャットフレームB、C
2016.7.5/7.12	大学院共通科目「テクニカルコミュニケーション」 （担当教員：野村港二（教育イニシアティブ機構））	チャットフレームB、集会室



日 付	内 容	場 所
2016.10.3~12.19	大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」全10回 (担当教員：野村港二(教育イニシアティブ機構))	チャットフレームC
2016.10.18~10.20	学生プレゼンバトル 2016 予選 (主催：つくば院生ネットワーク)	チャットフレームC
2016.10.21	【座談会】歴史家 二宮宏之の書棚 (林田伸一(成城大学)、 高澤紀恵(国際基督教大学)、津崎良典(人文社会系))	チャットフレームB
2016.11.5/11.6	近未来えほん遊園地(図書館情報メディア研究科宇陀・松村研究室と共催)	集会室
2016.11.16	MENAの衣装を体験しよう (主催：MENA Week 2016)	チャットフレームC
2016.12.9	中国文化週間 (主催：筑波大学中国留学生学友会)	チャットフレームC
2016.12.13~12.16	AFRICAN ACADEMIC AND CULTURAL WEEK 2016 (主催：グローバルコモンズ機構)	チャットフレームC
2017.1.18	【ワークショップ】アカデミック・ライティング・センターにおける文書 作成能力育成指導 (講師：Genie Giaimo(オハイオ州立大学))	チャットフレームC
2017.1.20	【講演会】オハイオ州立大学ライティング教育指導センターから見える 大学教育の未来 (講師：Genie Giaimo(オハイオ州立大学))	チャットフレームC
2017.2.7	短期留学生用：総合日本語科目「英語で学ぶ日本事情B」 (担当教員：関口美緒(グローバルコミュニケーション教育センター))	チャットフレームC
2017.2.9	国際バカロレアの考えに基づいたコミュニケーション言語学習について (Learning Language Communicatively as in IB programs) (講師：キャロル・犬飼・ディクソン(客員教授、日本国際バカロレア 教育学会 会長))	チャットフレームC
2017.2.10	東日本大震災から5年10ヶ月 一今、できることを考えるー (主催：Tsukuba for 3.11)	チャットフレームC
2017.2.20	2016 BEST FACULTY MEMBER 表彰式 学内中継 (企画評価室)	チャットフレームC
2017.3.6	WRITING LECTURE Creating a Memorable Resume (講師：Kristie Collins / 主催：グローバル・コモンズ機構)	チャットフレームC
2017.3.10	平成30年度採用分学振特別研究員セミナー「英語で申請する学振 特別研究員」(Seminar on how to apply for JSPS Gakushin DC.) (主催：URA 研究戦略推進室)	チャットフレームC
2017.3.22	平成28年度つくば学会 (主催：つくば院生ネットワーク)	チャットフレームC
2017.3.31	ミニオープンキャンパス (主催：T-ACT「ミニオープンキャンパス」)	チャットフレームC

※「6.オリエンテーション・講習会」に記載のものは除きます。場所は、特記したものを以外は中央図書館での開催です。

4.展示

日 付	内 容
中央図書館 展示	
2016.4.6~5.8	新入生歓迎展示「ツクバ春のホン祭り ～走り出す君へ～ Reading バトン×学習支援の本棚」
2016.4.25~5.20	グローバル人材の育成に関する取組を中心に ～平成27年度 筑波大学附属学校の活動～ (主催：附属学校教育局)
2016.5.16~6.16	Tsukuba for 3.11 2015年度活動報告 (主催：Tsukuba for 3.11)
2016.6.6~6.10	若者政治意識向上プロジェクト (主催：WMP(若者未来プロジェクト))
2016.6.6~7.8	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」 (全館連動企画、財務部財務制度企画課との共催)
2016.6.22~7.9	投票に行こう! (主催：T-ACT「投票所設置プロジェクト」)
2016.7.11~8.10	「つくバグ」の活動をのぞいてみよう (主催：T-ACT「つくバグ2016」)
2016.9.15~9.29	台湾紹介資料フェア～もっと知りたい台湾～(台湾文化ウィーク)(国際室との共催)
2016.10.1~10.30	世界食糧デー テーマ：「気候変動から見た食糧生産」 (主催：TABLE FOR TWO 筑波大学、Youth Ending Hunger 筑波)
2016.10.11~11.13	2016年度附属図書館特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」(主催：筑波大学附属図書館／人文社会科学研究科)
2016.10.24~10.30	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示 (Open Access Week 2016)
2016.11.1~11.30	僕らの夏休み Project の活動と実際に訪れた被災地の様子の紹介 (主催：僕らの夏休み Project)
2016.11.1~11.30	学生団体「WorldFut Tsukuba」の活動内容紹介 (主催：WorldFut Tsukuba)
2016.11.16~11.23	MENAWEEKの活動紹介(中東・北アフリカ週間)(主催：MENA Week 2016)
2016.11.17	貴重書展示室常設展「日本の出版文化」の小特集を「名峰・筑波山」に展示替え
2016.12.7~12.9	中国文化週間(主催：筑波大学中国留学生学友会)
2016.12.12~12.26	AFRICAN ACADEMIC AND CULTURAL WEEK 2016 (主催：グローバルコモンズ機構)

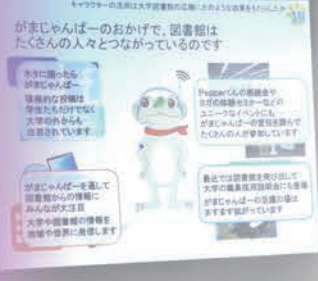
6 トピックス

日 付	内 容
体育・芸術図書館 展示	
2016.4.1～4.28	アンチ・ドーピングとは何か? (共同主催:渡部厚一(体育系)、JADA(日本アンチ・ドーピング機構))
2016.5.2～5.23	地域情報メディア「ツクマガ」とデザイン (主催:学生団体 C4)
2016.6.6～7.6	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」
2016.7.8～9.8	2016 年度写真演習 課題作品展
2016.7.26～9.30	ハイスピードシャッターの使用による撮影 “STRAWBERRY MOMENT” ほか (芸術専門学群学生)
2016.9.14～10.14	台湾留学生による芸術作品展示 (台湾文化ウィーク) (国際室との共催)
2016.10.3～10.31	ハイスピードシャッターの使用による撮影 “MUNSELL CROWN” (芸術専門学群学生)
2016.11.5～11.30	マンガでシェイクスピア展 国際グラフィックシェイクスピアコンペティション名作選 (主催: Graphic Shakespeare Competition / 筑波大学人文学群比較文化学類)
2017.1.23～2.27	新春書展 2017 (芸術専攻学生)
2017.1.26～3.29	伊藤幾久造の美人画と怪人画-70 年ぶりに甦る<霞ヶ浦の乙女> (主催:齊藤泰嘉 (芸術系))
医学図書館 展示	
2016.4.1～4.28	アンチ・ドーピングとは何か? (共同主催:渡部厚一(体育系)、JADA(日本アンチ・ドーピング機構))
2016.6.6～7.8	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」
2016.9.20～10.31	看護実習に役立つ本
図書館情報学図書館 展示	
2016.3.1～6.5	源氏絵の様々 (綿抜豊昭 (知的コミュニケーション基盤センター長))
2016.3.4～6.5	関連図書展示
2016.6.6～7.8	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」
2016.8.5～9.30	そうだ、筑波山へ行こう! (綿抜豊昭 (知的コミュニケーション基盤センター長))
2016.8.5～9.30	連動企画「茨城、つくば再発見!」
2016.10.24～11.30	百人一首様々 (綿抜豊昭 (知的コミュニケーション基盤センター長))
2016.11.4～11.30	連動企画「和歌に親しむ」
2016.12.7～2017.1.30	図書館情報学図書館所蔵図書にみるサイエンスコミュニケーション (白川友紀 (特任教授))
2017.2.1～2.28	KLC チューター推薦図書
2017.2.10～2.28	図書館情報専門職養成アーカイブ展 (吉田右子 (図書館情報メディア系))
2017.3.17～5.31	金沢の肖像写真展 (綿抜豊昭 (知的コミュニケーション基盤センター長))
2017.3.31～5.31	連動企画「大正・昭和の写真展」
大塚図書館 展示	
2016.5.13～5.31	ようこそ! 東京キャンパスへ
2016.6.6～7.8	研究不正防止キャンペーン展示「Stop! 不正行為 あなたは大丈夫?」

5.見学・来訪者

日 付	内 容
2016.4.5	ロシア連邦トイバ国立大学副学長 1 名
2016.5.18	ポルドー大学教員等 4 名
2016.5.23	中国の大学生 9 名
2016.6.1	マレーシアの高校生 26 名
2016.6.13	シンガポールの高校生 21 名
2016.7.22	JST さくらサイエンスプラン (中国の高校生) 一行 66 名
2016.8.6/8.7/8.11	平成 28 年度受験生のための筑波大学説明会 6,079 名
2016.9.21	JICA 留学予定者 24 名
2016.10.17	台湾教育センター長一行 4 名
2016.11.24	コロンビア行政官一行 10 名
2016.12.8	モルドバ日本交流財団理事長およびロシア等の大学教員・学生一行 9 名
2016.12.9	ICADL2016 国際会議参加者 5 名
2016.12.15	JST さくらサイエンスプラン (中国の大学関係者) 一行 15 名
2017.1.12	フロリダ州立大学教員 2 名
2017.1.27	エジプト E-JUST (エジプト日本科学技術大学) 一行 14 名
2017.2.7	サンパウロ大学 職員 1 名
2017.2.7	浙江工業大学大学生および引率教員 25 名
2017.2.10	ハバロフスク地方教育科学大臣一行 8 名
2017.2.10	釜山大学校インターンシップ学生 3 名
2017.2.14	西南交通大学・貴州民族大学大学生及び引率教員 20 名
2017.2.14	東北師範大学 図書館司書 1 名

※全86件(9,522名)から抜粋したものです。



がまじゃんぱーが講演デビュー

6.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	4回	2,419名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	8回	373名
留学生オリエンテーション	8回	187名
新任教員オリエンテーション	2回	20名
職員オリエンテーション	1回	102名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	6回	12名
論文の探し方講習会	39回	251名
自由テーマオリエンテーション	27回	97名
科目関連指導	73回	3,139名
(内訳) フレッシュマンセミナー (各学類等)	49回	2,132名
授業「看護学研究法」春学期の2コマ分を担当	2回	42名
授業「基礎化学実験」春学期の2コマ分を担当	2回	111名
授業「国語Ⅲ」春学期の2コマ分を担当	2回	154名
授業「知の探検法」秋学期の12コマ分を担当	12回	563名
生涯発達専攻/経営システム科学専攻/理療化教員養成施設	6回	137名
科目内オリエンテーション、講習会6コマ分を担当		
その他	6回	91名

日 付	内 容	講 師	参加者数
ライティング支援連続セミナー			
2016.6.9	大学院生基礎 自分を守る情報リテラシー：情報の山で迷わないために	逸村裕（図書館情報メディア系）	11 名
2016.6.15	大学生入門 文書リテラシー	三波千穂美（図書館情報メディア系）	15 名 6 名
2016.6.16	(1) 小論文とレポートの違いはわかりますか？ (2) 情報を構造化する		
2016.11.2	大学生入門 大学で身につけたい言葉の力	島田康行（人文社会系（アドミッションセンター長））	7 名 12 名
2016.11.9	(1) 疑うことから始めよう ー批判的に読むー (2) 考えの述べ方 ー主張の＜構造＞ー		
2016.11.17	大学生基礎 事実？意見？	野村港二（教育イニシアティブ機構）	4 名 3 名
2016.11.24	(1) 図表を文章で表現する (2) 「事実」と「意見」を区別する		
2016.11.26	大学院生基礎 自分を守る情報リテラシー：情報の山で迷わないために	逸村裕（図書館情報メディア系）	9 名
2016.11.30	自分をオープンに伝えてみようー批判は怖くないーワークショップ (1)	五十嵐沙千子（人文社会系）	12 名 6 名
2016.12.7	ワークショップ (2)		
IAセミナー			
2016.11.15	ラーニング・アドバイザーが伝える！レポートの書き方セミナー 前編	大山貴稔、Novikova Natalia （附属図書館ラーニング・アドバイザー）	18 名
2016.11.22	ラーニング・アドバイザーが伝える！レポートの書き方セミナー 後編	飯島悠介、小山田建太 （附属図書館ラーニング・アドバイザー）	12 名
2016.12.7	申請書で伝える！あなたの研究セミナー	二歩裕、新道真代（URA 研究戦略推進室）	18 名
多読入門セミナー			
2016.6.9	英語多読の基礎知識 ー小学校から始まっていますー	鈴木はる代（教育研究科）	26 名
2016.10.27	英語多読をもっと楽しむためのアプローチ ～「フロー」から考える、多読が効果的なワケ～	中川弘明（人文社会科学研究科）	30 名
2017.2.2	英語多読の効果を高めるアプローチ ～効率的な実力アップに向けて～	多田豪（人文社会科学研究科）	20 名
その他の研究・学習支援企画			
2016.7.20	Reading and Writing in English 使える！英文ライティングセミナー (1)	RAKWAL Randeep（体育系）	14 名
2016.7.27	使える！英文ライティングセミナー (2)		16 名

6 トピックス

日 付	内 容	講 師	参加者数
その他の研究・学習支援企画			
2016.10.25 2016.12.15	博士論文インターネット公開の基礎知識	船山桂子、中原由美子（リポトリ担当）	76 名 58 名
2016.12.14 2017.1.18 2017.1.21 2017.1.25	「英語論文の書き方」と「英語プレゼンテーション」セミナー 図書館情報学図書館ラーニングコモンズ 中央図書館本館 2 階集会室 東京キャンパス文京校舎 1 階 117 講義室 医学地区臨床講義室 D ※ [EndNote の使い方] を併催	西川マリ (カクタス・コミュニケーションズ株式会社／ ユサコ株式会社)	16 名 40 名 32 名 60 名

7. 研修・シンポジウム

日 付	内 容
2016.7.4～7.15	平成 28 年度大学図書館職員長期研修（受講生 35 名）
2016.7.25／8.3／8.8	職場体験（つくば市内中学生 3 校 10 名）
2016.8.25～9.7	インターンシップ（筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類 3 名）
2016.12.12	平成 28 年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会 兼 関東甲信越地区国立大学図書館職員研修会（参加者 48 名）

8. 会議

日 付	内 容
2016.5.31／7.7／2017.3.21	附属図書館研究開発室運営会議
2016.5.30／7.25／9.26／12.5／2017.3.6	附属図書館運営委員会
2016.6.20／9.20／11.15／12.7／2017.2.21	附属図書館収書専門委員会
2016.6.27／12.19	附属図書館ボランティア専門委員会

9. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
1. 情報リテラシー教育における文献探索プログラムの開発と実践	宇陀則彦（図書館情報メディア系）／渡邊朋子、守谷美佐子、佐藤まみ子、松野渉（附属図書館）
2. ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕（図書館情報メディア系）、島田康行（人文社会系・アドミッションセンター長）、野村港二（教育イニシアティブ機構）／三波千穂美（図書館情報メディア系）、学習支援推進 WG（附属図書館）
3. 情報探索行動の分析 図書館データを用いた利用者の行動分析	逸村裕（図書館情報メディア系）／池内有為、菊池隼士、榎本翔（大学院図書館情報メディア研究科）、佐藤翔（同志社大学）、松野渉（附属図書館）
アクセスログ解析による入館者の行動調査	佐藤聡（システム情報系・学術情報メディアセンター）、逸村裕（図書館情報メディア系）／平田完（附属図書館）
4. 図書館への応用可能性を調べるクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）／太田千尋（システム情報工学研究科）、池田光雪（千葉大学アカデミック・リンク・センター）、岩本英一（情報学群情報メディア創成学類）、利用者支援担当（附属図書館）
5. 附属図書館における貴重資料の保存と公開 附属図書館所蔵屏風の発ガス物質の除去	松井敏也（芸術系）／篠塚富士男（國學院大學栃木短期大学）、増田竜司（日本無機株式会社）、永濱恵理子（附属図書館）
附属図書館における貴重書・和装古書の公開と基礎的研究	山澤学（人文社会系）、谷口孝介（人文社会系）／特別展WG（附属図書館）
6. 附属図書館の将来構想の検討	江川和子（学術情報部）、谷口孝介（人文社会系）、逸村裕（図書館情報メディア系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）／佐藤初美、中村洋子、渡邊朋子、松野渉、田村香代子、岡部幸祐、嶋田晋、石津朋之（附属図書館）
7. 図書館における高齢者の情報行動分析	宇陀則彦（図書館情報メディア系）／溝上智恵子、呑海沙織（図書館情報メディア系）、梅澤知史（情報学群知識情報・図書館学類）、鴨志田美由喜（附属図書館）
8. 理科系英文インターネットジャーナルの検討	後藤博正（数理物質系）、逸村裕（図書館情報メディア系）／Rafael Kiebooms（ヨーロッパ特許庁）、岡部幸祐、嶋田晋、平田完（附属図書館）
9. 図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴（生命環境系）、逸村裕（図書館情報メディア系）／望月有希子（図書館情報メディア系）
10. 知の集積と発信機能を強化した次期電子図書館システムの検討	宇陀則彦（図書館情報メディア系）、江川和子（学術情報部）／高久雅生（図書館情報メディア系）、岡部幸祐、嶋田晋（附属図書館）

メディアにみる附属図書館

語学試験・就職対策コーナーも充実

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2016.4.1	TSUKUCOMM	雑誌	「がまじゃんぱー」が図書館キャラクターGP 日本一!
2016.4.7	筑波大学新聞	新聞	利用マナー改善困難 対策の効果見られず
2016.4.8	産経新聞	新聞	ゆるキャラ戦国時代 がまじゃんぱー(茨城・筑波大附属図書館)
2016.5.19	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、「Pepper」による朗読会を開催
2016.5.27	NHKニュース	テレビ	人型ロボットによる朗読会
2016.6	LISN	雑誌	大学図書館における貴重書管理の歩み ―筑波大学附属図書館の10年―
2016.6.11	常陽新聞	新聞	人型ロボット朗読披露 筑波大 若者と高齢者印象比較
2016.6.15	文教速報	雑誌	筑波大図書館で研究不正防止キャンペーン
2016.6.20	文教ニュース	雑誌	筑波大図書館 研究不正防止キャンペーン2016
2016.6.21	筑波大学HP	web	筑波大学附属図書館でヨーガセミナーを開催
2016.6.22	文教速報	雑誌	筑波大図書館でPepper朗読会イベント
2016.6.27	文教ニュース	雑誌	筑波大学図書館 ペッパーによる朗読会イベント
2016.6.28	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学中央図書館に第24回参議院議員選挙期日前投票所が設置される 学生の働きかけがきっかけ
2016.7.8	文教速報	雑誌	筑波大、参院選期日前投票所を設置
2016.7.11	文教ニュース	雑誌	第24回参議院議員通常選挙 各大学で模擬投票の実施や期日前投票所を設置
2016.7.11	文教ニュース	雑誌	筑波大学 附属図書館でヨーガセミナー
2016.7.11	筑波大学新聞	新聞	ペッパーが小説朗読 学生ら40人参加
2016.7.13	文教速報	雑誌	筑波大図書館でヨーガセミナー
2016.7.15	筑波大学HP	web	平成28年度大学図書館職員長期研修開催
2016.8.5	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催(筑波大)
2016.8.15	文教ニュース	雑誌	筑波大 大学図書館職員長期研修
2016.9.6	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」を開催 献呈本や西洋稀覓書を展示
2016.9.20	医学部に入る2017 (週刊朝日ムック)	図書	学び取る医の道 医学部図書館探訪
2016.10.3	筑波大学新聞	新聞	体芸図書館ラウンジ改装 バランスボールの椅子も
2016.10.13	常陽新聞	新聞	筑波大体育芸術図書館 学習スペースオープン スポーツとアートに特化
2016.10.24	文教ニュース	雑誌	筑波大図書館 新ラウンジ アートとスポーツに特化
2016.10.26	文教速報	雑誌	筑波大にアートとスポーツに特化した学習空間 体育・芸術図書館に「ユーリカ」がオープン
2016.11.8	常陽新聞	新聞	11月9日から11日まで中央図書館につくば市長選・市議選の期日前投票所設置
2016.11.12	常陽新聞	新聞	つくば市長選・期日前投票で中央図書館では2日間で206人が投票した
2016.11.19	常陽リビング	新聞	『ヴェニスの商人』マンガで“新解” キャラづくりに腐心 30日まで筑波大で作品展示
2016.12.5	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」
2016.12.12	筑波大学HP	web	大学図書館における障害学生支援に関する研修会を開催
2016.12.22	カレントアウェアネス-E	web	筑波大学附属図書館における二宮文庫の受入れと活用の取組
2017.1.6	文教速報	雑誌	筑波大図書館で特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」
2017.1.27	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、良質な本を十分に揃えるための支援金をネットで募集開始
2017.1.27	筑波大学HP	web	附属図書館でクラウドファンディングを開始
2017.1.27	文教速報	雑誌	大学図書館での障害学生支援で研修会(筑波大)
2017.1.29	毎日新聞	新聞	筑波大がクラウドファンディング会社と提携 第1弾 図書館資料購入費
2017.1.30	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 障害学生支援に関する研修会
2017.1.30	日経産業新聞	新聞	筑波大、ネット資金調達 図書館資料費 運営企業と提携
2017.2.1	朝日新聞	新聞	筑波大、クラウドファンディング活用 第一弾は図書館の資料購入
2017.2.4	東京新聞	新聞	筑波大 ネットで寄付集め 国立大初 クラウドファンディング会社と提携 第1弾は図書など購入
2017.2.4	茨城新聞	新聞	図書購入費ネットで募る 価格高騰、予算圧迫 筑波大、6日間で目標到達
2017.2.4	産経新聞	新聞	クラウドファンディング会社と業務提携 筑波大、国立大で初
2017.2.6	文教ニュース	雑誌	筑波大学 ライティングセンター体験イベント
2017.2.15	文教速報	雑誌	筑波大で海外ライティングセンター体験イベント
2017.2.20	常陽リビング	新聞	“霞ヶ浦の乙女”土浦で発見 深水の愛弟子・伊藤幾久造(体芸図書館展示に言及)

メディアにみる附属図書館

2.筑波大学附属図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2015	
筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2015	
2016年度筑波大学附属図書館企画展 歴史家 二宮宏之の書棚 (図録)	
Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)	
No.85	2016. 5.16 ラーニング・アドバイザー2016
No.86	2016. 7.22 ライティング支援セミナー体験記(その1) 大学院生基礎「自分を守る情報リテラシー」
No.87	2016. 7.22 ライティング支援セミナー体験記(その2) 大学生入門「文書リテラシー」
No.88	2016. 8. 1 大学図書館をちょっと見たい人のための中央図書館 見学ガイド
No.89	2016.12.16 ラーニング・アドバイザーが伝える!レポートの書き方セミナー ダイジェスト
No.90	2017. 1.23 申請書で伝える!あなたの研究セミナー ダイジェスト
No.91	2017. 1.25 中央図書館国際交流コーナー&キャリアゾーンをリニューアルしました
筑波大学附属図書館概要 2017(日本語版・英語版)	
筑波大学附属図書館利用案内2017(和英併記)	

3.筑波大学出版会の刊行物

発行	タイトル	著者
2016.7.25	もっと知りたい!「科学の芽」の世界 PART5 オフセット版・電子版	筑波大学長 永田 恭介 監修 「科学の芽」賞実行委員会 編
2016.10.7	破壊と再生の歴史・人類学 一自然・災害・戦争の記憶から学ぶ	伊藤 純郎・山澤 学 編著
2017.3.30	観光戦略としての宗教 長崎の教会群と場所の商品化 POD版	松井 圭介 著

4.出版・放映・web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2016.4.13	放映、web	貴重書	Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di Papa Greg. XIII. : Distinto in tredici capi, in memoria delli XIII. anni, ch'egli visse nel suo felice ponteficato	198.221-B39	10079324032	NHK 福岡放送局「世界遺産への道」、同番組 Web ページ動画
2017.1.17	放映					テレビ長崎「小説 沈黙の旅～遠藤周作と長崎～」
2017.2.1	放映					「南蛮絵旋風～見えてくるキリシタンの姿(仮題)」
2016.5.18	放映	和装古書	文部省発行錦繪:衣喰住之内家職幼繪解之圖等 第8[木挽],第9[墨糸ひき],10[鉤けずり鉤ひき],第13[上棟]	へ950-宮196	10088015236	テレビ東京「イチゲンさん」 2016年5月22日(日)放映
2016.7.20	出版	貴重書	新撰苑玖波集 明応8 [1499] 貴重図書	ル220-34	10076713954 ～10076713957	「連歌大観」第1巻(株式会社古典ライブラリー)
2016.7.27	出版	貴重書	蒙古襲来絵巻 [江戸時代後期]「和11番」内の画像	カ210-334	10076713992	「鎌倉のサバイバル」 (朝日新聞出版)
2016.9.5	出版	和装古書	①浪華日記 乾坤 ②難波のかり 1～7	①ヨ216-273 ②ル185-18	①10076746266 ～10076746267 ②10076721875 ～10076721881	数田實編「大阪西町奉行久須美祐明日記」(清文堂出版)
2016.9.30	放映	和装古書	教育女禮式之圖	721.8-Ko39	10009013176	テレビ東京「世界!ニッポン行きたい人応援団」2016年9月22日(木)放映
2016.11.15	放映	和装古書	富士見十三州奥地之全圖	ネ040-211	10076904196	渡邊辰五郎記念館上映用ビデオ「渡邊辰五郎の足跡」
2017.1.11	放映	和装古書	新板江戸大繪圖	ネ040-88	10076904436	BS-TBS「にっぽん!歴史鑑定」
2017.2.6	放映	和装古書	①日光御社参圖誌 ②供奉御役附(日光社参/日光御社参御供付) ③遷御之節岩瀨川口仮橋勸番絵図(岩瀨川口假橋勸番繪圖 [2])	①ネ308-88 ②ヨ216-179 ③ヨ150-170-2	①10076905336 ②10076738929 ③10076879843	「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつりプロモーションビデオ」
2017.2.10	放映	明治以降教科書	尋常小學讀本	へ000-103	10088017029	テレビ朝日「グッド!モーニング 林修のことば検定」2017年2月13日(月)放映

※全48件から抜粋したものです。

1. 2016 年度ボランティア構成

●男性：10 ●女性：40 計 50 名

〈年齢内訳〉

●30代：2 ●40代：3 ●50代：11

●60代：21 ●70代：12 ●80代：1

●新規活動者 6 名 ●更新活動者 44 名

2. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,006 人

(学内者：840 人 学外者：166 人)

●図書館見学案内 97 件 4,567 人

●対面朗読 82 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 3,749 連

(中央図書館：3,694 連 体芸図書館：55 連)

●不明図書の発見 2 冊

●ラベル補修 362 冊

(中央図書館：357 冊 体芸図書館：5 冊)

●図書修理冊数 1,495 冊

(中央図書館：1,047 冊 体芸図書館：448 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 277 枚

3. 年間行事

1 フォローアップ研修

●学内施設見学（エンパワースタジオ）8 月

2015 年 11 月に完成した研究施設エンパワースタジオを見学し、最先端の仮想現実 (VR) 技術について体験を交えてご説明いただきました。



エンパワースタジオ

●学外施設見学（国立国会図書館）12 月

●ミニレクチャー「ラーニング・アドバイザーについて」

講師：渡邊 朋子 ラーニングサポート係長 1 月

2 ボランティア懇談会 10 月

3 ボランティア講演会 10 月

『「こころ」で「からだ」を調える：マインドフルネス入門』

講師 湯川進太郎 人間系准教授

4 意見交換会

●体芸特殊資料（ポスター）整理 9 月

4. 各種活動

1 見学案内

今年も学内外から多数の見学者が来館されました。海外からの見学者には、英語・中国語・スペイン語などで和やかな会話を交わしながらのご案内が好評を頂いています。

2 対面朗読

4 月からのレギュラー予約が入り、毎週 2 回の対面朗読活動を 1 年間実施できました。新入障害学生ガイダンスでもご紹介いただき PR を続けていきます。

3 日本文化紹介

毎回好評の「おりがみ講習会」は、留学生からのご希望により、

今年度は実施回数を 4 回に増やしました。また新しい日本

文化紹介活動の試みとして、ボランティ

アのカルタ会に参加

した留学生に書道体験もしてもらいました。



4 利用環境整備

館内に 1 冊しかない図書の修理や、請求記号順に並ぶようにシェルフリーディングをするなど、図書館の見えないところでも利用者へのサービス向上のために作業をしています。

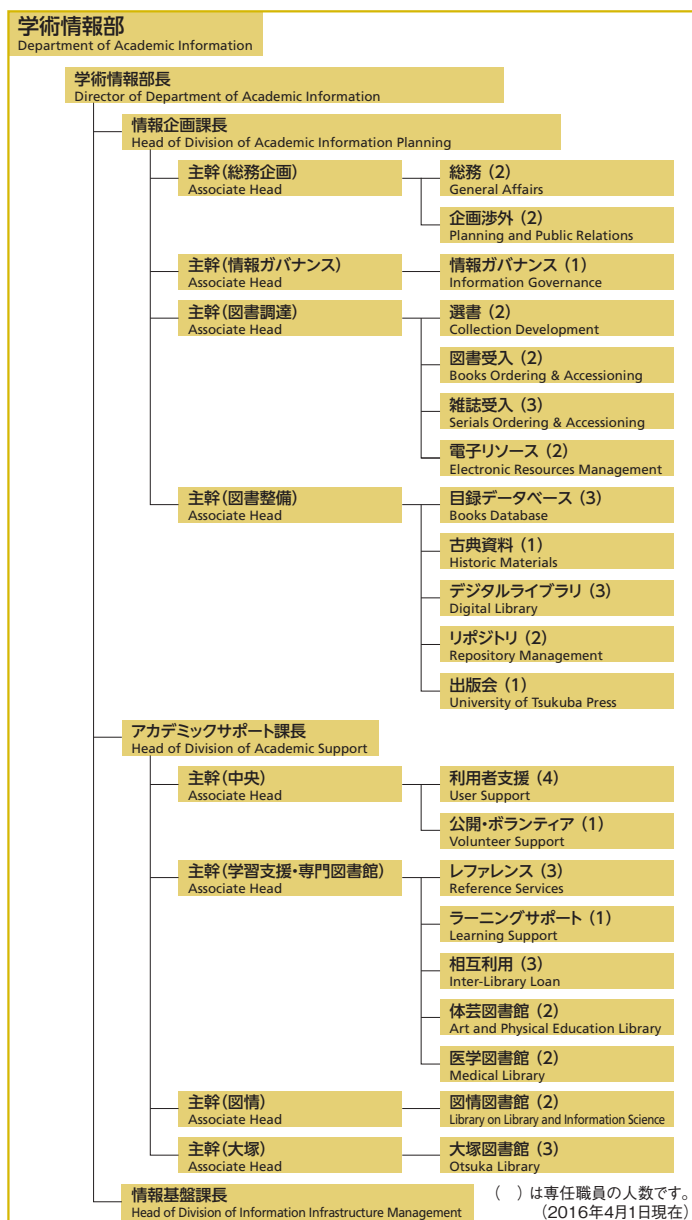
5 受賞

つくば市社会福祉協議会からのご推薦により、筑波大学附属図書館 ボランティアが、第 66 回 茨城県社会福祉大会 (2017.10.28 開催) において、「茨城県社会福祉協議会会長表彰 団体部門」を受賞しました。今後の活動へのさらなる励みとなる受賞でした。

(公開・ボランティア係長 鴨志田 美由喜)

組織図・歴代図書館長

1. 組織図



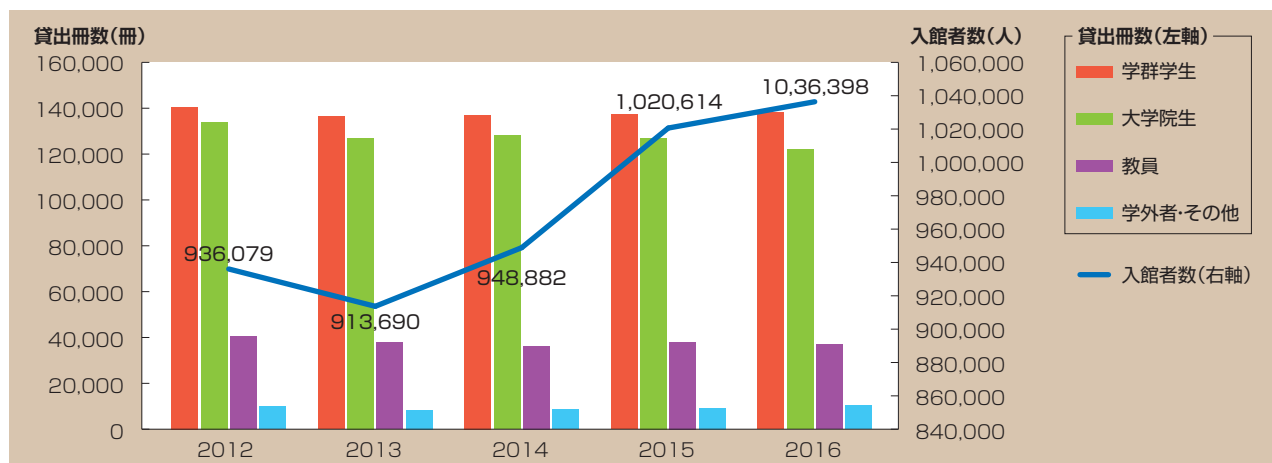
2. 歴代図書館長

	氏名	期間	備考
高等師範学校・	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月3日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大饗 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期・平成27年4月1日より副学長(学術情報担当)を兼務
	西川 博昭	平成28年4月1日 ~	副学長(学術情報担当)を兼務



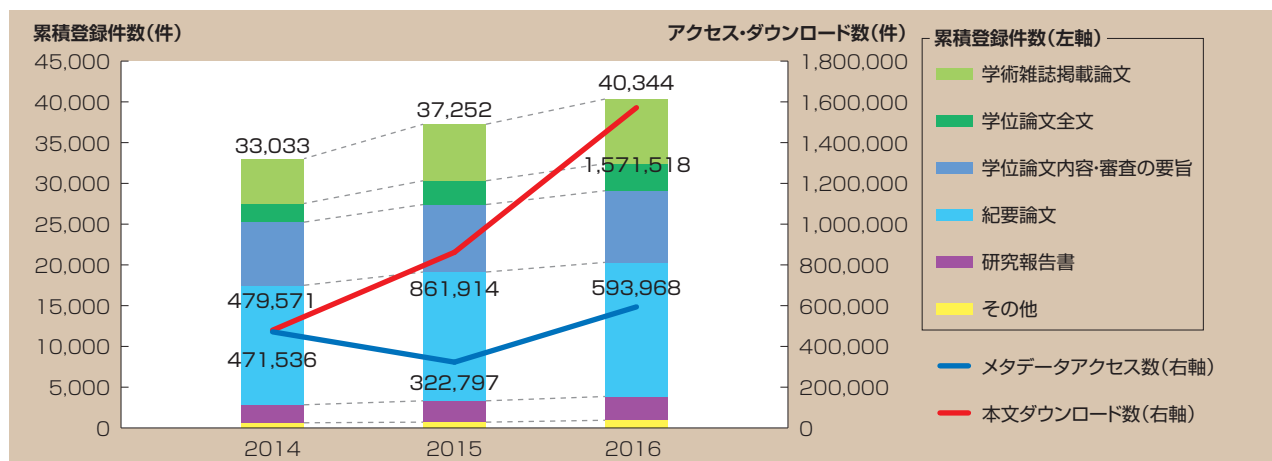
1.推移と分析

利用サービスの推移



2015年度に引き続き入館者数は増加しています。これは、中央図書館ラーニング・スクエアのリニューアル、全館で実施された各種セミナーやイベントなどの効果があったと考えます。また、学群学生の貸出冊数はわずかながら増加しています。2016年2月からは新たなサービスとして、筑波・大塚間に加え、筑波キャンパス図書館間の図書取り寄せサービスの試行も開始しており、その効果については今後も注視して行く必要があります。

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2015年11月の「筑波大学オープンアクセス方針」の採択を受けて、つくばリポジトリの累積登録件数は順調に伸びており、リポジトリによる研究成果の公開と蓄積が学内で定着しつつあることを読み取ることができます。特に学術雑誌掲載論文について、2016年の登録率は登録可能論文の70%を越えており、オープンアクセス方針の周知が登録率の増加に繋がっています。同時に、リポジトリへのアクセス、ダウンロードを示す数値も順調に増加しており、登録された学術情報が有意義に活用されていることをうかがい知ることができます。特にダウンロード数は顕著に増加しており、つくばリポジトリのコンテンツ拡充がGoogle等外部検索サイトからのダウンロード利用増加にも一役を担っています。

※ JAIRO Cloudのログ集計方法変更により、遡及可能な2014年まで遡って数値を更新しました。

2.利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	238	238	238	246	246	—
	土・日・祝日	114	80	114	118	118	—
	合計	352	318	352	364	364	—
入館者数(人)	平日	519,100	94,678	128,884	52,134	54,095	848,891
	(学外者 内数)	23,202	2,142	4,489	2,641	24,109	56,583
	土・日・祝日	99,309	11,519	30,307	7,611	38,761	187,507
	(学外者 内数)	9,755	495	3,030	1,019	13,761	28,060
	合計	618,409	106,197	159,191	59,745	92,856	1,036,398
平均入館者数(人)	(学外者 内数)	32,957	2,637	7,519	3,660	37,870	84,643
	平日	2,181	398	542	212	220	—
	(学外者 内数)	97	9	19	11	98	—
	土・日・祝日	871	144	266	65	328	—
	(学外者 内数)	86	6	27	9	117	—
貸出冊数(冊)	合計	1,757	334	452	164	255	—
	(学外者 内数)	94	8	21	10	104	—
	学群生	99,432	15,187	13,734	9,397	414	138,164
貸出利用者数(人)	院生	87,441	14,734	4,995	6,001	8,700	121,871
	教員	25,170	3,227	3,068	2,567	2,882	36,914
	学外者	5,706	544	536	997	2,344	10,127
	その他	307	3	1	3	0	314
	合計	218,056	33,695	22,334	18,965	14,340	307,390
	学群生	44,185	6,561	7,043	4,401	212	62,402
文献複写(コピー) (件)	院生	30,442	5,223	2,137	2,416	3,993	44,211
	教員	5,918	657	869	724	704	8,872
	学外者	2,649	274	271	525	1,128	4,847
	その他	31	1	1	1	0	34
	合計	83,225	12,716	10,321	8,067	6,037	120,366
相互貸借(図書) (件)	学外依頼	4,054	617	2,451	229	1,579	8,930
	学外提供	2,173	161	523	105	131	3,093
	合計	6,227	778	2,974	334	1,710	12,023
レファレンス件数(件)	学外借受	1,365	74	28	100	190	1,757
	学外貸出	2,257	292	67	120	104	2,840
	合計	3,622	366	95	220	294	4,597
資料に関するもの 利用案内・指導 事実に関するもの	学生	9,185	1,336	1,515	1,005	4,330	17,371
	教職員	2,784	321	2,372	278	563	6,318
	その他	1,439	90	87	188	1,258	3,062
	合計	13,408	1,747	3,974	1,471	6,151	26,751
	資料に関するもの	9,081	1,236	3,591	652	3,873	18,433
合計	利用案内・指導	4,270	510	383	812	2,272	8,247
	事実に関するもの	57	1	0	7	6	71
	合計	13,408	1,747	3,974	1,471	6,151	26,751

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	455,323
学外	877,415
合計	1,332,738

つばりポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	593,968
本文ダウンロード数	1,571,518

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	6,133
JSTOR	34,925
Nature	172,559
Oxford Journals	49,804
ProQuest Central	59,891
Science	25,229
ScienceDirect	675,394
SpringerLink	120,105
Wiley Online Library	186,133

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	8,233
CiNii	500,497
Journal Citation Reports	13,720
Lexis.com	2,119
ProQuest Central	15,752
SciFinder	24,316
Web of Science	139,716
医中誌Web	88,367

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	868
ProQuest Ebook Central**	13,068
Maruzen eBook Library*	1,430
NetLibrary*	1,207
Springer	95,182
Wiley-Blackwell	1,801

* タイトルアクセス数(その他はセクションアクセス数)

** 2017年1月に ebrary から名称変更



皆様のご利用をお待ちしております

3.基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,141	372	338	252	131	2,234
利用者用PC台数(台)	163	70	76	38	25	372

(※2016年度末現在)

図 書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	9,226	2,925	1,255	1,911	765	16,082
	洋書	2,307	1,075	105	203	180	3,870
	合計	11,533	4,000	1,360	2,114	945	19,952
	(受入区分) 購入	6,463	1,295	1,175	722	679	10,334
	寄贈	3,839	2,449	130	1,211	136	7,765
	製本	1,071	252	55	180	128	1,686
	その他	160	4	0	1	2	167
	合計	11,533	4,000	1,360	2,114	945	19,952
蔵書冊数	(和洋区分) 和書	1,103,398	194,571	90,956	180,184	51,540	1,620,649
	洋書	793,276	67,799	80,425	73,667	26,490	1,041,657
	合計	1,896,674	262,370	171,381	253,851	78,030	2,662,300

雑誌(冊子)受入タイトル数

内 訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	943	6,590	7,533
洋雑誌	574	1,041	1,615
合計	1,517	7,631	9,148

つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2016年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	7,924
学位論文全文	3,323
学位論文内容・審査の要旨	8,787
修士論文	162
紀要論文	16,454
研究報告書	2,915
会議発表資料	275
講義資料	77
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	64
その他(図書)	245
合計	40,344

電子ジャーナル契約タイトル数 (※有料契約のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	363
JSTOR	978
Nature	32
Oxford Journals	261
ProQuest Central	16,700
Science	1
ScienceDirect	2,300
SpringerLink	1,606
Wiley Online Library	1,412
その他	5,933
合計	29,586

提供データベース・検索ツール

●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
CiNii
Conference Proceedings Citation Index
D1-Law.com
Journal Citation Reports
Lexis.com
ProQuest Central
ProQuest Dissertations & Theses Global
PsycINFO
SciFinder
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web

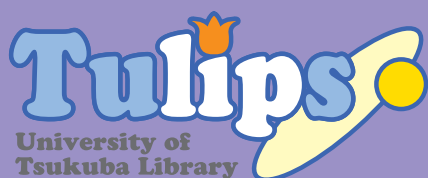
●学外への公開・発信

公開・提供内容
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
沖縄歴史文庫データベース
つくばサイエンスアクティビティ
つくばリポジトリ
展覧会ポスターデータベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)

電子ブック契約タイトル 累積数 (※2016年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,666
ProQuest Ebook Central*	—	497
Maruzen eBook Library	646	122
NetLibrary	490	1,027
Springer	—	23,636
Wiley-Blackwell	—	1,120
その他	11	3,475
合計	1,147	31,543

* 2017年1月に ebrary から名称変更



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
 TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
 E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
 URL https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY ANNUAL REPORT 2016

16

平成29(2017)年5月31日発行
 デザイン印刷：マザータンク